

2015

ANNUAL REPORT

事業報告書



CITY
UNIV.

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。—都市大グループ

東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

学校法人五島育英会

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。—都市大グループ



東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

東京都市大学 附属中学校・高等学校

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

東京都市大学 塩尻高等学校

東京都市大学 附属小学校

東京都市大学 二子幼稚園

東急自動車学校

目次

03	東京都市大学グループの理念と目標 東京都市大学グループ学園歌
04	ご挨拶
05	特集1 グループの進化とチャレンジ
07	特集2 国際教育のさらなる進化
09	特集3 多様な学びを深化
10	設置校の概要
23	財務、財務概要、5年間の財務データ(推移)、財産目録
29	教育関連データ
31	2016年度の事業計画
32	各種奨学制度
33	組織図
34	役員・評議員一覧
35	学校法人五島育英会の概要
37	事業活動
38	教育関連施設

進化とチャレンジの精神

都市大グループの使命は、単に知識や技術の修得だけでなく、優れた感性と品性を備え、世界から待望される有為な人材を育て上げていくことです。本グループは、それぞれの学校がこれまで培ってきた歴史と伝統を生かしながら、それらを融合することによって得られる学園全体の総合力を最大限に発揮できるよう、グループの理念と目標を設定しています。通底するのは、未来に向かって着実に進化し、つねにチャレンジする精神です。

教育理念

健全な精神と豊かな教養を培い
未来を見つめた人材を育成します

教育目標

国際的な視野と情報活用能力を身につけ
健全な精神と豊かな教養をもって、
国際社会で活躍する有為な人材を育成します

グループビジョン

都市大グループは、
未知の世界を切り開き、
未来に向かって挑戦します

東京都市大学グループ学園歌

五島育英会のウェブサイトにて試聴いただけます ● http://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/song_of_tcu_group.html

夢に翼を

作詞・作曲／岩代浩一 編曲／岩代太郎

1.

まなびや
学園の道の 陽を浴びて

精気さやかな 都市に起つ

未来を目ざす 心意気

こころ
不滅の精神を学ぶなり

きらめ
香る個性の煌きに

あす
明日の英知を磨き合う

もろて
双手に燃える青春の

夢に翼を 夢に翼を

2.

まなびや
学園の大地に 風わたり

てん くう そう そう さ
天空蒼々と 冴えるとき

あ うん い ぶき と も
阿吽の息吹 朋友の声

讃歌たからかに ひびくなり

いのち
若き生命の羽ばたきに

あす
明日の希望を語り合う

力あふれる青春の

夢に翼を 夢に翼を

3.

まなびや つど
学園の森に 集い来て

こずえ さ こ だち
梢するどく 指す木立

おおぞら
遥かに仰ぐ 大宙の

北斗に真理の光あり

つたえ めく
古き伝統の温もりを

あす
明日に生かして励み合う

血潮みなぎる青春の

夢に翼を 夢に翼を

作詞・作曲 岩代浩一先生からのメッセージ

たとえ老人になっても、夢に生きている人は新鮮に輝いています。本当の「老(おい)」は夢が失くなってしまった時と言えましょう。

憶えば子供の頃は、些細なことでも新鮮な出来事に会おうと、ドキッと反応して感動したものでした。だから、「子供ごころ」は何時も夢でイッパイでした。少年期から青春時代にかけての夢になると、将来への希望が多くなってきます。「夢多き時

代」には若い命が遅く息吹き、夢を見るほどに血潮が滾ってきます。しかし夢は必ずしも実現するとは限りません。いや、むしろ叶わぬ夢の方がずっと多いでしょう。夢を実現する為には、ただ憧れているだけでなく、強い翼を育てることが肝要です。夢の翼は、個性であり、創造への英知であり、ロマンへの情熱であり、未来へ飛翔する不滅の力(真の勇氣)です。本当の夢は目を覚ましてみるもの。夢に翼を!



学校法人五島育英会 理事長

安達 功

新たなる次元への飛躍

少子高齢化に伴う社会構造の変化や経済活動のグローバル化等、世の中の流れは非常に早く、教育機関への期待も大きく変化しております。

こうした状況下、2015年は「新たなる次元への飛躍」をテーマに、様々な教育研究活動を推進いたしました。

東京都市大学では、実行2年目となる中長期計画「アクションプラン2030」にて、国際標準の大学へと進化すべく諸課題に取り組みました。グローバル人材育成プランの一つ「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」では、実践的な専門力を有した国際人となるべく、一期生約210名のうち第一陣122名が、2月に豪州・エディンバラ大学へと留学し、語学力と異文化理解力を磨いています。

付属各校においても、電子黒板等によるICT教育や双方向型授業を導入したほか、塩尻高校の新校舎完成等様々な学校改革、付属中学校のマレーシア異文化交流や等々力中高校のGL・留学プログラム導入等、グローバル人材の育成をめざした教育プログラムを推進いたしました。

今後も当法人では、各校の有する利点・長所を組み合わせ、更なるシナジー効果を創出し、都市大グループ全体の持続的成長につなげてまいります。また、全教職員がスピードの重視と質の更なる向上へ主体的に取り組み、学生や生徒、保護者の皆様をはじめ、社会の要請に応えてまいります所存です。

引き続き、当法人の活動にご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2030年度
ビジョン

国際都市東京で
存在感を示す
有数の私大

東京都市大学アクションプラン2030

東京都市大学は、2029年に100周年を迎えます。今後、一層厳しい状況が予測される日本の教育機関を取り巻く社会環境に備え、2013年度に本学の持続的発展に向けた将来ビジョン「東京都市大学アクションプラン2030」を策定しました。

2015年度も4つのプロジェクトにおいて、様々な施策を実行し、将来ビジョン達成に向けて着実に改革を推進しております。これからも各種施策のもとに全教職員が力を結集させ、十分な分析と検討をつねに行いながら、迅速かつ柔軟な変革を続けてまいります。

1 教育の質保証プロジェクト

- 都市大教育理念に則った教育プログラムの確立
- 教育の質を保証するためのマネジメントシステムの構築
- グローバル化に対応した人材の育成
- 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成

2 キャンパス教育環境向上プロジェクト

- 施設の長寿命化および更新(アメニティ空間の改善)
- グローバル化に対応する施設
- 良質な学修環境

3 ブランド力向上プロジェクト

- 広報力の強化によるブランド力
- 国際化の推進によるブランド力
- 産学協同体制の構築によるブランド力
- 創立記念事業によるブランド力
- 東京オリンピック開催に合わせた“都市大”ブランド力の向上戦略

4 大学運営向上プロジェクト

- 中長期計画に基づくPDCAサイクルの確立と評価
- 大学のガバナンス強化
- 時代の変化に対応した大学運営組織
- 収支に立脚した財務基盤の確立

2015年度実行
主なプロジェクト

1 教育の質保証プロジェクト

- 3ポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)の検証・見直し
- 授業科目と教育到達目標との対応関係を示した履修系統図の導入
- 教育理念・目標に基づく内部質保証方針の策定と全学的な自己点検・評価の実施
- 「東京都市大学オーストラリアプログラム」準備教育の実施と第一陣の派遣
- 大学院工学研究科における社会人を対象とした新たなプログラムの開発
- 研究情報の発信を強化するための「TCU Research Directory」の発行

2 キャンパス教育環境向上プロジェクト

- 学生情報システムや教学IR(Institutional Research)システムの構築
- グローバルアクティブルーム(TC)の整備や新たな英会話プログラムの実施
- 「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」開設や「渋谷サテライトクラス」拡充による教育環境の整備



「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」の設置

3 ブランド力向上プロジェクト

- 公式ウェブサイトのリニューアル等による積極的な広報活動の展開
- 「東京都市大学フェアin静岡」実施等による多様なステークホルダーとの連携強化
- 海外インターンシップに学生30名を派遣(五島育英会「夢に翼を奨学金」での支援)
- 海外3大学(大連交通大学、モンクット王工科大学トンプリ校、マレーシア工科大学)との新規協定締結



「東京都市大学フェアin静岡」

4 大学運営向上プロジェクト

- 前年度達成状況の数値化による中長期計画に基づくPDCAサイクルの確立と評価
- 「大学戦略室レター」の発行や専用サイト開設によるアクションプラン情報の共有
- 意思決定の迅速化に向けた学内委員会の見直しや外部研究資金の積極的な獲得

2013年度策定
ビジョン達成に向けた
4つのプロジェクト

詳しくはウェブサイトへ [アクションプラン2030](#) 検索



五島慶太 初代理事長

グループの悲願は「大学を頂点とする総合学園化」

当法人の初代理事長である五島慶太は、目黒蒲田電鉄(東京急行電鉄の前身)を創業し、東急グループの礎を築く一方、国の繁栄と産業発展のため、教育事業の推進に尽力し、1955年に学校法人五島育英会を設立しました。人づくりの原点は教育にありとしていた五島の悲願が、大学を頂点とする総合学園化です。都市大グループはこの思いを継承し、未来を担う人材を育成し続けています。

国際教育のさらなる進化

東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP) 第一期生が留学!

東京都市大学が推し進めるグローバル人材育成プランの一つが、「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」。

2015年度入学の第一期生約210名のうち第一陣となる122名が、約半年の準備教育を経て、2月より西オーストラリア州のパーズにあるエディスコワン大学(ECU)へ5カ月留学しました。準備教育では42%の学生のTOEIC®スコアが100点以上アップ、そのうち200点以上が5%、最高は275点アップしました。また、現地ではECUの寮に滞在しながら、いろいろな国から集まった留学生同士が英語で互いの国の歴史や文化を説明する授業に参加するなど、グローバルな世界を肌で体験しました。なお、2016年8月には第二陣が出発の予定です。

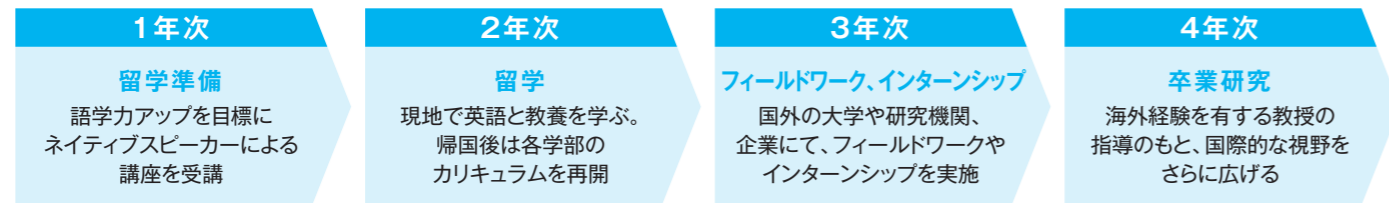


エディスコワン大学



現地で学ぶ学生たち

TAPの概要



東京都市大学

モンクット王工科大学トンブリ校および マレーシア工科大学と交流協定を締結

2016年1月、タイのモンクット王工科大学トンブリ校(KMUTT)およびマレーシア工科大学(UTM)と交流協定を締結しました。KMUTTは、タイ国内で上位にランクされる研究力に秀でた成長株の大学で、UTMは12の学部と大学院を擁する研究型大学です。今後は、両大学と教育研究面における相互協力および学生・教職員の交流事業などの進展が期待されます。



モンクット王工科大学トンブリ校のSakarindr学長と握手する三木学長

東京都市大学 付属中学校・高等学校

「マレーシア異文化体験プログラム」がスタート

中学3年生の希望者を対象にした「マレーシア異文化体験プログラム」が、2015年8月にスタートしました。滞在したテメルロー村ではホームステイをしながら通学し、現地校ではバディと呼ばれる生徒とともに、英語はもちろんマレー語を用いた授業にも参加するなど、存分に異文化を体験しました。



ホワンリン校でのウェルカムセレモニー

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

グローバル・リーダーズ・プログラムを導入

2015年に導入したグローバル・リーダーズ・プログラムでは、中学3年への進級時に留学希望者を募って選考の上、準備教育を経て高校1年の7月から約1年間、カナダもしくはオーストラリアへ留学します。帰国後は高校2年生へ復学し、その後も海外の大学へ進学を希望する生徒へはガイダンスなどを通じてサポートし、国際社会に大きく貢献できる人材を育成します。



留学予定者と英語力の高い生徒(帰国生を含む)で構成される英語アドバンスクラス



現地の子どもたちに日本文化を英語で伝える生徒たち

東京都市大学 塩尻高等学校

世界を肌で感じる セブ島語学研修を実施

国際社会で活躍できる人材の育成に向けた新たな取り組みとして、希望者を対象としたフィリピンのセブ島における語学研修を実施しました。参加した生徒は同国の歴史的名所見学をはじめ現地の子どもたちとの交流など、日本とは異なる文化を2週間にわたり体験し、世界の今を肌で感じとりました。

東京都市大学 付属小学校

ブリティッシュヒルズでの異文化体験

2013年度より毎年、4年生を対象にブリティッシュヒルズ(福島県羽鳥湖高原)での異文化体験および英語実践学習を行っています。校内にも常勤のネイティブ教員を配し、英語の授業はもちろん、児童が平時にも楽しみながら英語と接する環境づくりに取り組んでいます。



ブリティッシュヒルズでの英国伝統菓子スコーンづくり



先生が来られると「Hello!」と英語でご挨拶

東京都市大学 二子幼稚園

ネイティブ講師による多文化教育を実施

年長組を対象に、付属小学校よりネイティブの先生を招き、クイズや手あそびなどを通じて英語に親しむ機会を設けました。先生の身ぶり、手ぶりを交えたコミュニケーションに園児たちも精一杯応えました。

多様な学びを深化

学際的連携と地域交流の拠点

「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」の活用がスタート

2015年6月、二子玉川ライズ・オフィス棟に「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」がオープンしました。この施設は都市大の教育研究活動に加え、都市大グループ各校や地域との連携活動にも幅広く利用されています。カラフルな机や椅子、大型モニターや最新の3Dプリンタを配置したキャンパスでは、子どもから大人までが楽しみながらアカデミックなイベントに参加しています。

【施設概要】

所在地:東京都世田谷区玉川2-21-1二子玉川ライズ・オフィス8階
 延床面積:574.23㎡(173.7坪)
 アクセス:東急大井町線・田園都市線「二子玉川」駅から徒歩1分
 開館時間:平日/10:00~19:00、土日祝/10:00~16:00(夏休み・年末年始に休館日あり)



これまでの活動実績

第12回未来エネルギーシンポジウム

東京都市大学・早稲田大学大学院共同原子力専攻によるシンポジウム。第一人者による福島第一原子力発電所の事故解説や、学生らによるパネルディスカッションを開催。



イグノーベル賞受賞者フォーラム

「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に与えられるイグノーベル賞を創設したマーク・エイブラハムズ氏が、2014年度の受賞10組の研究について講演。かつての受賞者でもあるドクター中松氏も同席。都市大等々力中高理科部の生徒も多数参加。



日経カレッジカフェ

座談会やパネルディスカッションのほか、学生とビジネスパーソンによる交流会などを開催。都市大以外の学生も参加。



夏休み生活展

都市大付属小学校の児童たちが夏休みの間に行った研究の成果や制作活動の作品を展示。児童による作品のプレゼンテーションも実施。



グループ間連携を一層強化

互いが刺激し合う取り組みを実施

東京都市大学 × 東京都市大学付属小学校 付属小・水泳大会に都市大水泳部が協力

2015年9月5日、都市大付属小学校の水泳大会へ、都市大水泳部の8名が準備や審判などのスタッフとして協力。スムーズな大会運営とともに、児童は頼もしいお兄さん・お姉さんとの交流に笑顔が溢れました。



東京都市大学等々力中学校・高等学校 × 東京都市大学二子幼稚園 園児に理科部生徒が科学の面白さを伝授

年長、年中組を対象に、都市大等々力中高理科部の生徒による「科学体験教室」を開催。科学を用いて、楽しくあそぶ中で園児はたくさんの不思議に出会い、中高生も改めて科学の面白さを知る機会となりました。



設置校の概要

東京都市大学



- 教職員数 778名
- 学生数 7,522名
(大学6,950名、大学院572名)
- 開設年 1929(昭和4)年
- 所在地
(世田谷キャンパス)
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1
TEL.03-5707-0104
(横浜キャンパス)
〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1
TEL.045-910-0104
(等々力キャンパス)
〒158-8586 東京都世田谷区等々力8-9-18
TEL.03-5760-0104

東京都市大学 付属中学校・高等学校



- 教職員数 126名
- 生徒数 1,586名
(中学校831名、高等学校755名)
- 開設年 中学校1956(昭和31)年
高等学校1951(昭和26)年
- 所在地
〒157-8560
東京都世田谷区成城1-13-1
TEL.03-3415-0104

東京都市大学 等々力中学校・高等学校



- 教職員数 98名
- 生徒数 1,142名
(中学校561名、高等学校581名)
- 開設年 中学校1947(昭和22)年
高等学校1948(昭和23)年
- 所在地
〒158-0082
東京都世田谷区等々力8-10-1
TEL.03-5962-0104

東京都市大学 塩尻高等学校



- 教職員数 69名
- 生徒数 787名
- 開設年 1956(昭和31)年
- 所在地
〒399-0703
長野県塩尻市広丘高出2081
TEL.0263-88-0104

東京都市大学 付属小学校



- 教職員数 33名
- 児童数 476名
- 開設年 1956(昭和31)年
- 所在地
〒157-0066
東京都世田谷区成城1-12-1
TEL.03-3417-0104

東京都市大学 二子幼稚園



- 教職員数 14名
- 園児数 197名
- 開設年 1955(昭和30)年
- 所在地
〒158-0094
東京都世田谷区玉川2-17-10
TEL.03-3708-0104

※教職員数、学生・生徒・児童・園児数は2016(平成28)年5月1日現在 ※教職員数は非常勤教職員を含む



国際標準の大学に進化させ 学生の夢を実現できる場へ

三木 千壽 学長

2015年度は、中長期計画「東京都市大学アクションプラン2030」に基づき、様々な改革に取り組みました。このプランは、「国際都市東京で存在感を示す有数の私大」を目指し、2030年までに本学を「世界大学ランキング300位以内」にすることを目標としています。その嚆矢となる、国際人育成プログラム「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」がスタートしました。これからも、教育・研究の両面で国際標準の大学に進化するための取り組みを進めていきます。

世界300位以内を目指し アクションプランを推進

2015年度は、90周年(2019年)、100周年(2029年)を見据えた中長期計画「東京都市大学アクションプラン2030」の実行2年目となりました。2030年までに「世界大学ランキング300位以内」という目標を達成するため、「教育の質保証」「キャンパス教育環境向上」「ブランド力向上」「大学運営向上」という4つのプロジェクトによる事業計画を進めています。

アクションプランに基づき、都市大の教育研究活動や地域連携の拠点として二子玉川ライズに、「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」を新設(P.9前出)。さらに世田谷キャンパス図書館に「ラーニング・commons」の設置や、「渋谷サテライトクラス」のスペース拡充など施設整備を行いました。

この他にも、フォーラムや研修会を



「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」オープニングセレモニーの様子

施するなど、運営組織を中心におよそ70件の事業計画を推進しました。

理系と文系どちらの学部も 高い就職率を達成

2016年度募集の学部入試は、志願者数1万7,782名。前年度に比べて微増しています。

また、受験生の傾向を把握するため、全新生にアンケートを実施。今後の入試制度改革の資料とする予定です。

卒業生の就職状況は、各学部ともに非常に高い就職率を維持。工学部99.1%、知識工学部99.4%、環境情報学部97.9%、都市生活学部100%、人間科学部100%と、理系だけではなく、文系の学部でも非常に高い数値を達成しました。これからは「就職に強い大学」という評価を維持するため、グローバルに活躍できる人材を送り出していきます。

国際人育成プラン「TAP」開始 第一陣がオーストラリアへ

2015年度から「国際人育成プログラム」の一つ、「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」がスタートしました。参加者に対し、1日2時間、週5日の準備教育を半年間実施した結果、TOEIC[®]スコアで42%の学生が100点以上アップ、そのうち5%が200点以



TAPにて他国学生との授業風景

上、最高は275点アップと、飛躍的に英語力を向上させました。

2月3日に、第一陣となる122名が西オーストラリア州、パースにあるエディスコワン大学への留学に出発。約5カ月間にわたって英語と教養科目を学びました。第二陣の84名は8月に出発の予定です。

また、JSTの「さくらサイエンスプラン」などを通じて、アジア各地の大学から多くの学生を受け入れるとともに、相互交流のため本学の学生を相手校に派遣しました。

今後は、TAPも含めて毎年800名ほどの学生が留学できるよう環境を整えていきたいと考えています。

プログラムや制度を見直し フレキシブルに学べる環境に

2015年度には、3ポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)の明確化や、100分授業の導入といった教育プログラムの見直しも行いました。さらに各科目の

予習復習時間を確保するため、カリキュラムをスリム化し、半期の履修上限を24単位とするCAP(キャップ)制も導入しています。

2016年度からは、1年を4期に分ける「クォーター制」を本格導入。留学プログラムに参加しやすくとともに、短期間に集中開講することで学修効果の向上を期待しています。

その他、科目のレベルや専門を番号で分類する「ナンバリング制」の導入など、これからも学生がよりフレキシブルに学べるシステムを全学的に取り入れていきたいと考えています。

大学院教育を充実させて 世界的な評価を高める

国際標準の大学を目指すには、大学院教育の充実が必須となります。国立の理工系学部には9割以上が大学院に進学する大学もあります。本学でも大学院進学率の向上を図るため、研究指導にあたる教授陣の力量をさらに上げていきたいと考えています。そのために世界中で読まれる英語論文を書くことを推奨しています。そして研究面を強化し、外部資金を多く獲得し、その資金も使って、最終的には海外から多くの留学生を

受け入れたいと考えています。海外の人たちが憧れて来るようになって初めて国際標準の大学といえます。今後、定員やカリキュラムを見直し、大学院をさらに進化させていく予定です。

ウェブサイト



<http://www.tcu.ac.jp>

学部・研究科構成

学部	学科	研究科	専攻
世田谷 キャンパス	工学部	工学研究科	機械工学専攻 機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 生体医学専攻 情報工学専攻 建築学専攻 都市工学専攻 システム情報工学専攻 エネルギー化学専攻 共同原子力専攻*
	知識工学部		情報科学科 情報通信工学科 経営システム工学科 自然科学科
横浜 キャンパス	環境学部	環境情報学研究科	環境情報学専攻 都市生活学専攻
	メディア情報学部		環境創生学科 環境マネジメント学科 社会メディア学科 情報システム学科
等々力 キャンパス	都市生活学部	環境情報学専攻 都市生活学専攻	都市生活学科
	人間科学部		児童学科

*2013年4月、「環境情報学部」は「環境学部」と「メディア情報学部」に改組

*早稲田大学大学院との共同教育課程制度による専攻

2015年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・教学システムを中心としたICTの推進による学生サービスの向上 ・全学部・研究科で体系化したアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明示 ・授業科目と教育到達目標との対応関係を示した履修系統図を導入 ・教育理念・目標に基づく「内部質保証方針」を策定し、全学的な自己点検・評価を実施 ・大学院工学研究科都市工学専攻の新プログラム「社会基盤マネジメント」の開設準備(2016年度学生受け入れ) ・学生一人ひとりの学修・学生生活をサポートする学生情報システムを構築(2016年度導入) ・入試・学籍・成績・キャリアデータの可視化・分析を行う教学IR(Institutional Research)のシステム構築に着手 ・私立大学等改革総合支援事業に採択(タイプ3.産業界・他大学等との連携) ・東京都市大学オーストラリアプログラムを推進。1年生に準備教育を実施の上、第一陣として122名を豪州派遣 ・世田谷キャンパス図書館に「ラーニング・commons」を開設し、学生のアクティブラーニングを推進 ・意思決定の迅速化を図るべく、学内委員会の整理統合や運営方法の見直しに着手
	学生支援	・「基本方針」「修学支援」「学生生活支援」「キャリア支援」を策定し、適切な学生支援を実施
研究活動		・総合研究所に、新たに高効率水素エンジン・エンジンドライブ、応用生態システム各研究センターを新設、ナノエレクトロニクス研究センターへ改称 ・事務局に外部資金課を設置し、外部研究資金、寄付金等を積極的に獲得
国際交流		・「さくらサイエンスプラン」に10件の事業が採択され、私立大学採択数1位 ・大連交通大学(中国)、モンクット王工科大学(タイ)、マレーシア工科大学(マレーシア)3校と新たに協定締結 ・ネパール地震に対する支援活動として、教員の現地調査派遣、および調査報告会、ネパールトリバン大学の教員を招き災害教育や建築技術に関する情報提供に協力
広報活動		・研究情報の発信強化を図るべく「TCU Research Directory」を発行 ・公式ウェブサイトのリニューアル等を含めた積極的な広報活動を展開 ・「東京都市大学フェアin静岡」の実施等、多様なステークホルダーとの連携を強化
施設設備		・「語学・英会話等の学習環境として「グローバルアクティブルーム」「Tutorial English Corner」を整備。スカイプを使用した英会話プログラム等を実施 ・「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」の開設と「渋谷サテライトクラス」の拡充により、情報発信・地域連携を強化 ・東京都市大学設立記念碑を東京急行電鉄池上線・大崎小路駅に設置

【教育・研究】

総合研究所が「第104回 総研セミナー」を実施

2006年から定期的に行っている総研セミナーが、2015年10月21日に100回目を迎えました。さらに2016年3月1日には、「東京都市大学が考える未来都市東京」をテーマに、第104回をセルリアンタワー東急ホテルにて開催。満席となったセミナーは、本学総合研究所所長の丸泉琢也教授による「総合研究所と総研セミナーの紹介」から始まり、6名の専門家が講演しました。最後に登壇した本学の三木千壽学長は「未来都市実現に向けての東京都市大学の研究展開」と題して、研究は教育とともに大学運営の両輪という考えのもと、今後本学で行う研究の取り組みについて説明しました。



満席となった「第104回 総研セミナー」

【教育・研究】

世田谷キャンパス図書館に「ラーニング・commons」を開設

学生同士の知的交流を生み出し、主体的な学びの場を提供することを目的として2015年4月、世田谷キャンパス図書館に「ラーニング・commons」を開設しました。自由に意見交換を行う「KATARAI(語らい)」、課題に集中して取り組む「BOTTO(没頭)」、プレゼンテーションやゼミが行える「ZISSEN(実践)」という3つのエリアに分かれ、目的に合わせて学生が自ら学べる環境になっています。また、ラーニング・commonsは大学院生を中心とした学生組織によって運営され、科目学習やレポート作成などの支援も実施しており、開設後は図書館の利用者が増加しています。



発想が出会い、新たなアイデアを生む「KATARAI」

【産学連携】

キッコーマン飲料と共同開発したドリンクの商品発表会を開催

2014年6月、キッコーマン飲料が大学や高校にアイデアを募り、ドリンク開発を進めるといった企画において、本学知識工学部自然科学科の女子学生チーム「やま都市なでこ」のアイデアが選ばれました。そして、2015年5月27日、オープン前の「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」にて東京都市大学×キッコーマン飲料「こんなドリンクあったらいいな♪」新商品発表会を開催しました。会場では開発経緯の説明や新商品の紹介・無料配布を実施。マスコミ各社が来場し、質疑応答やフォトセッション、さらに学生への個別取材などが行われました。



応募総数145点から選出されたチーム「やま都市なでこ」

【地域連携】

世田谷区との官学連携「等々力溪谷清流化プロジェクト」始動

2015年3月に世田谷区と締結した包括協定に基づき、東京23区唯一の溪谷である等々力溪谷にアユやホタルなどが住める環境づくりを目指す「清流化プロジェクト」をスタートしました。清流化の方策を探るため、各研究室が連携し、化学専攻の研究室が毎週水質などの環境を調査、土木工学の研究者が水量を増やすための水路の設置などを検証しています。また生物学の分野では、生物が育ちやすいように、エサとなるプランクトンの生息状況などを研究しています。今後も多彩な事業を共同で推進し、地域社会に貢献すべく、本学の研究と教育の力を発揮していきます。



等々力溪谷でフィールド調査を行う学生たち

【施設設備】

設立記念碑を東急池上線の大崎広小路駅に設置

2015年10月30日、本学の前身である武蔵高等工科学校誕生の地、大崎広小路駅に東京急行電鉄株式会社の協力を得て、設立記念碑を設置しました。記念碑には「東京都市大学 発祥の地【武蔵高等工科学校(1929年・昭和4年) 建学の地】」の文字と紹介文、当時の建物写真や各時代の校章を記しています。今回の設置は、在学生と教職員、そして地域の方々に本学の歴史や伝統に対する理解を深めていただくことを目的に、「東京都市大学アクションプラン2030」の取り組みの一環として実施したものです。



大崎広小路駅の駅舎に設置された記念碑

【地域交流】

「東京都市大学フェアin静岡」にて静岡県の方々と交流

2015年9月5日に「東京都市大学フェアin静岡」をホテルアソシア静岡にて開催しました。本学の在学生には毎年300名以上の静岡県出身者がおり、横浜キャンパスには新幹線で毎日通学する学生もいます。また、同県出身の卒業生も社会で多く活躍しています。伝統的につながりが深い静岡の方々とさらに交流を深めるため、「東京都市大学アクションプラン2030」の一環としてイベントを実施しました。当日は、講演会だけでなく、進学相談や各種相談に加え、大学紹介展示コーナーを設置。また「大学と保護者との連絡会」と「校友会静岡支部総会・懇親会」も開催し、会場は多くの人で賑わいました。



会場では「都市大ならではの」特色を多面的にアピール

■海外協定校(提携順)

オレゴン工科大学(アメリカ)
北京建築工程学院(中国)
スロバキア工科大学(スロバキア)
バドュー大学(アメリカ)
南台科技大学(台湾)
武漢大学(中国)

ソフィア工科大学(ブルガリア)
カンタベリー大学(ニュージーランド)
カーティン大学(オーストラリア)
トリバン大学(ネパール)
エディスコーワン大学(オーストラリア)
タマサート大学(タイ)

ウーロンゴン大学(オーストラリア)
大連理工大学(中国)
大連交通大学(中国)
モンクット王工科大学トンプリ校(タイ)
マレーシア工科大学(マレーシア)

■就職内定率(2016年3月卒業生)

本学では、就職力を「就職力=(基礎力+専門力)×就活力」と考え、様々な取り組みを実施しています。具体的には、体系的に学んだことを振り返るキャリアポートフォリオや学内外で行われるキャリア支援プログラムを通じ、自分を知り、社会を知り、自分を磨くことで、内定獲得への確かな就職力を高めています。その結果、全国平均を上回る就職実績を実現しています。

■学部別就職内定率

・工学部 ……………99.1%	・都市生活学部 ……100.0%
・知識工学部 ………99.4%	・人間科学部 ………100.0%
・環境情報学部 ……97.9%	
・本学全学部 ………99.0%	・全国平均 ……………97.3%

※文部科学省・厚生労働省調査(2016年4月1日現在)

■インターンシップ

東京都市大学では、学生自らが学問と社会のつながりを考え、目的を持って行動し、キャリア形成につなげられるよう各種サポートを行っています。インターンシップ制度もその一つで、本学では卒業生の協力も得て200社以上の企業に学生を受け入れていただき、2015年度は715名が参加しました。また、海外において事業展開する企業等でも実施しており、異文化への理解やグローバル社会で活躍するための素地を養っています。



海外インターンシップに参加した学生による成果発表会



多彩な体験プログラムを通じて「たくましく生きる力」を育む

小野 正人 校長

2015年度は、6年連続で志願者数都内トップを記録しました。最難関校との併願者が増え、受験生の学力レベルも高くなってきています。こうした結果は、本校の教育プログラムが高く評価されていることの表れだと感じています。また昨年は、新しい異文化体験プログラムを導入するなど、グローバル教育をより強化した一年でもありました。これからも完全中高一貫教育の強みを生かし、生徒の「学ぶ力」と「生きる力」を育てていきます。

医学科合格者数が過去最高 志願者は6年連続都内トップ

2015年度も例年と同じく高い進学実績を残すことができました。

国公立大学には55名が合格。早慶上理（早稲田大、慶應義塾大、上智大、東京理科大）とICU（国際基督教大）には115名、GMARCH（学習院大、明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大）には190名が合格しました。また、医学部には慶應義塾大をはじめ、過去最高の17名が合格しました。

一方、2016年度募集における中学入試の志願者総数は一般入試が3,512名となり、6年連続で都内1位を達成しました。最難関校との併願者が増え、都内の城北、城東エリアや埼玉県、千葉県など、志願者の居住エリアも拡大しています。

また、帰国生入試は男子校の中で全国1位となる193名の受験となりました。今年4月には44名の帰国生が入学しています。



マレーシア・ホワンリン校の生徒と授業を受ける様子

異文化体験プログラムを導入し、グローバル化をさらに加速

2015年度もグローバル化を推進し、中学3年生を対象としたマレーシア異文化体験プログラムを新たにスタート。7日間のホームステイ中は、現地の生徒と同じ授業を受けました。最初は不安そうにしていた生徒も、1週間を過ごすうちに顔もこやかに、「帰りたい」という生徒も出るほどでした。11月には、受け入れ先のホワンリン校と姉妹校として提携し、同校の生徒10名と教員2名が来校し、調印式を行いました。

3年前にプログラムを一新したニュージーランドの語学研修は、毎年定員を超える人気で2015年度は48名の高校1年生が参加。3週間にわたる厳しいプログラムを乗り越えた生徒たちは、自信、学習意欲、家族への感謝の思いを強くして帰国しました。

来年の春にはIT先端企業や日系企業、現地の大学などを回るアメリカ研修旅行を実施するほか、2017年度にニュージーランドへの短期留学制度の導入を予定しています。

様々な体験を通し 生徒が自分の世界を確立する

本校が掲げる「たくましく生きる力」を身につけるには、自分の世界を確立する



企業での電波暗室体験

ことが大切です。そのために2015年度も自分がどのように生きたいのかを徹底的に考えるプログラムを数多く実施しました。キャリア学習の企業研修では、生徒だけで企業や事業所を訪問し、仕事や大人の社会を知り将来を考えます。また高校1年生の中期修了論文では、自ら設定したテーマについて、足を運んで調査するフィールドワークを重視しています。

今後さらに加速するグローバル社会で生き抜く力を養うため、今後も生徒の自主性を喚起するための多様な仕組みづくりを充実させていきます。

ウェブサイト



<http://www.tcu-jsh.ed.jp>

【教育・研究】

ノーベル物理学賞を受賞した中村修二博士が特別講演

2015年10月27日には、青色発光ダイオード(LED)の開発で2014年にノーベル物理学賞を受賞した中村修二博士(アメリカ・カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授)を招き、「夢をかなえる力とは」をテーマに特別講演会を開催しました。中学3年生と高校1・2年生の約800名がご著書である『夢と壁』を事前に読んで聴講しました。

中村博士はご自身の経験を振り返りながら「社会で生きる力」について力説し、生徒たちに熱いエールを送りました。さらに質疑応答でもユーモアを交えて会場を大いに沸かせました。最後に生徒会長が感謝の花束を贈呈すると、生徒たちから大きな拍手が起こりました。



「アイデアを創りだし、チャレンジし続けることが大切」と語る中村修二博士

【部活動】

2015年度も輝かしい成績を残したクラブ活動

本校では96%の生徒がクラブ活動に入っており、活発に活動しています。2015年度も各クラブが活躍し、優秀な成績を残しました。

中学少林寺拳法部は都大会において組、単独、団体の各演武で好成績を挙げ、初の男子総合優勝を果たしました。また、中学硬式野球部(東京都市大学附属ボーイズ)は東京都西支部で優勝し、関東大会でベスト8の成績を残しました。日本少年野球選手権大会東京都西支部予選においても準優勝し、仙台市で開催された東北大会に招待されました。さらに自動車部は「本田宗一郎杯 Honda エコ マイレージ チャレンジ」の中学生クラスで好記録を収め、3年連続3回目の優勝という快挙を達成しました。



「本田宗一郎杯 Honda エコ マイレージ チャレンジ」で3連覇の自動車部

【教育・研究】

社会問題から身近な話題まで全員で真剣に考えた弁論大会

2016年2月17日、中学1・2年生による弁論大会を開催しました。大会の進行はすべて生徒によって行われ、クラスから1名ずつ選ばれた合計14名の代表弁士が会場のアルママタホールで熱弁をふるいました。

「日韓の歴史観の違い」や「マイナンバーについて」といった現代の社会問題をテーマにする生徒から「自転車と歩行者の事故を避けるには」や「家族の定義」といった身近なテーマを選ぶ生徒まで多種多様。弁論する生徒もそれを聞く生徒もそれぞれの意見を真剣に聞き、自らも考える機会となりました。



仲間の発表に耳を傾ける生徒たち

■2015年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・ネイティブスピーカーによる中1・中2帰国生対象の英語取り出し授業等を実施 ・ICT教育に関する外部研修会への参加を奨励し、全教員がタブレット端末を試用 ・補習対象生徒の絞り込み、講習に関する実施報告書一覧の作成、学習合宿への参加条件の設定等を実施
	生徒指導 学校間連携	・携帯電話およびメールに関する講習会、自転車安全教室、道徳講演会、定期的な登下校指導等を実施 ・自動車部と都市大等々力中高理科部、生徒会役員と都市大塩尻高校の生徒会役員・吹奏楽部員の新たな交流を実施
研究活動		・外部講師による模擬試験の分析報告会や各教科での結果分析を通じ指導を改善 ・ICT先進校から講師を招聘した夏期研修の開催や、授業アンケートの結果を用いた分析会等を実施
国際交流		・アジア交流プログラムとしてマレーシア異文化交流の実施(中学3年次)また、ホームステイの積極的な受け入れを図り、国際理解教育を推進
広報活動		・帰国生とグローバルの各入試の周知に向け、国内外での説明会や海外の教育施設訪問等を展開
施設設備		・入試にweb出願を導入



「ノブレス・オブリージュ」の精神とグローバルリーダーを育成する

原田 豊 校長

2015年度は中高一貫の一期生が卒業する年ということで注目を集める中、難関国公立大学の合格者が飛躍的に増え、非常に満足いく結果を残すことができました。また、女子部は最後の生徒となりましたが、18名全員が進学することができ、明るい気持ちで卒業してもらえたと思います。今後はさらに実績を伸ばすとともに、生徒の「ノブレス・オブリージュ(高潔な若人が果たすべき責任と義務)」の精神を養い、「グローバルリーダーの育成」に力を注いでいきます。

難関大学への合格者数が増加 中学入試志願者の増加率は都内一

2015年度もこれまで同様、時間管理の意識を高める独自の学習システム「TQノート」や面談を通じて生徒と教員が信頼関係を築き、一緒に努力しながら受験に取り組んだことで高い進学実績を挙げられました。

国公立大学には前年度の約2.8倍となる31名が合格。北海道大と東北大に加え、関東圏の難関大学にも合格しています。早慶上理(早稲田大、慶應義塾大、上智大、東京理科大)の合格者は50名。GMARCH(学習院大、明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大)は前年度の約1.8倍の178名が合格しました。また、付属進学制度により東京都市大学に27名が合格。卒業生全体の進学率は94.8%で前年度を7ポイント上回っています。(現役生実績)

2016年度募集の中学入試の志願者数は前年度より1,321名多い3,444名。志願者数で都内2位、増加率は都内1位となりました。帰国生入試の志願者



豪州の研究機関で実験する生徒たち

数は前年度よりも30名増え、85名を集めました。

語学力向上を目指し 多様な国際交流プログラムを展開

本校では「グローバルリーダーの育成」を掲げ、英語国際教育に力を入れています。新たな取り組みとして7月に中学生を対象とした4日間の「イングリッシュサマーコース」を実施。約200名の申し込みがあり、3日間は朝9時から15時半まですべて英語でネイティブの教員の授業を受け、4日目に保護者を招いてプレゼンテーションを行いました。

イギリスの名門パブリックスクール「ラグビー校」への語学研修旅行や、医療・理系探求型のオーストラリア夏期語学研修も実施。大学入学を控えたラグビー校の卒業生(ギャップイヤー生)の受け入れなど、国際交流が盛んになっています。

2016年度の冬には中学3年生から高校2年生を対象とした英語上達のためのエンパワーメントプログラムの導入も考えています。

双方向授業を実践し、質の高い授業と理想の人格教育を推進

日本的な協働・共生社会の良さも生かした上で、意見を交換しあって課題を解



電子黒板を用いた授業

決できる力を育成するため、新たな教育活動として「知識構成型ジグソー法」というアクティブラーニングを授業に導入しました。さらにICT(情報通信技術)を取り入れ、37教室に電子黒板を設置。今後は、タブレットの使用を本格的にスタートさせる予定です。

また「ノブレス・オブリージュ」の精神を養う教育の一環として部活動単位で行うボランティアも実施しました。2016年度は、本校の道徳教育の柱としてユネスコで行っている「ESD(持続可能な開発のための教育)」に着手しようと考えています。こうした取り組みを通し、学業だけでなく高い理想の人格教育を推進していきます。

ウェブサイト



<http://www.tcu-todoroki.ed.jp>

【教育・研究】

76年間続いてきた女子部の歴史に幕

2015年度の卒業式で最後となる生徒を送り出し、76年間続いてきた女子部の歴史に幕を閉じました。卒業式翌日の3月18日には、卒業したばかりの生徒18名に加え、多数の同窓生とゆかりある教職員の方々を招き記念式典「女子部グランドフィナーレ」を開催しました。卒業生で女優の日色ともゑさんによる記念講演では、東横学園時代の懐かしい思い出を語っていただきました。その後の懇親会では、旧交を温めあったり、恩師を囲んで思い出話に花を咲かせたりと、会は和やかに進行し、伝統ある女子部の最後を華やかに締めくくりました。



式典の最後には女子部生徒が校歌を斉唱しました

【教育・課外活動】

公職選挙で使われる投票箱や記載台を用い生徒会役員選挙を実施

2016年夏の参議院選挙から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることを踏まえ、2015年11月に開催した中学生徒会の役員選挙では、世田谷区選挙管理委員会の協力・指導のもと、実際の公職選挙で使われる投票箱や記載台を用いて実施しました。

初めての経験に戸惑い、友人に相談しながら投票する生徒もいましたが、中学校全生徒518名が実際の選挙方法で生徒会役員を選出し、選挙や主権者に対する理解を深めました。



公職選挙用の投票箱等を用いた生徒会選挙

【教育・課外活動】

充実した宿泊行事を通して「ノブレス・オブリージュ」を学ぶ

中学校の各学年で「ノブレス・オブリージュ」をテーマとした宿泊行事を行いました。1年生は7月28~30日に、3年生のSA(Student Assistant)と西丹沢での「サバイバルキャンプ」へ。大自然と共生し、また仲間や先輩と過ごすことを通じて、助け合い、尊重、感謝などを学びました。

2年生は6月17~19日に「自己発見と共生の旅」へ行きました。福島県にある大熊中学校との交流と震災教育、偉人研究として野口英世記念館を訪問、会津藩校日新館では武士道精神を学びました。宿舎に戻ってからはその日学習したことをジグソー法を使って共有・協議し、「私たちの仕の掟」をテーマとしてプレゼンテーションしました。

3年生は11月9~13日に集大成となる「平和と命の旅」を実施。鹿児島県の知覧特攻平和会館訪問、熊本県で水俣病患者認定者の講話を拝聴、長崎県原爆資料館見学などを通し、平和や命の重みについて考えました。



知覧特攻平和会館での見学

2015年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・定期試験の評価算出過程の明示化と、成績下位者への再指導態勢強化 ・定期試験に向けた自習室利用キャンペーンを実施 ・外部講師に日報の作成を依頼し連携強化 ・オーストラリア最先端科学研修やグローバルリーダーズ講座を推進 ・電子黒板を利用した授業、タブレット端末の導入準備等を実施
	キャリア教育 生徒指導	・宿泊行事の理念体系化・統一に向け、各行事の指導に関するアウトラインを確認 ・藍桐祭執行部の創設、生徒会総務リーダーシップ養成合宿の開催等を通じて、生徒の主体的な活動を支援 ・五島慶太先生を学ぶ会、年間を通じた「ノブレス・オブリージュ」の教室・校内掲示等を実施
国際交流		・カナダでの1年留学プログラム、留学生の積極的な受け入れ、イングリッシュチャーター講座等を実施 ・世田谷南ロータリークラブとクロスカルチャー講座を共催
広報活動		・ウェブサイトリニューアルし、入試説明会では生徒によるスクールライフ紹介、Q&A等を実施



充実した学習環境とプログラムでグローバルリーダーを育成する

赤羽 利文 校長

全国大会に出場するレベルの運動部に加え、ここ数年、恒常的に国公立大学の現役合格者を輩出するなど、進学実績も向上していることから、徐々に本校の教育に対する期待も高くなってきているように感じます。さらに2015年度に外構工事や芝の張り替えなども完了し、新校舎を含む学習環境が整いました。今後、さらに教育システムの改善を図り、グローバルリーダーたるべき資質を身につけた生徒を育成していきます。

独自の教育システムが評価され志願者数は2年連続県内トップ

2015年度は、新潟大、山梨大、前橋工科大など国公立に6名が進学。青山学院大、立教大、亜細亜大をはじめとした私立には88名が進学しました。そのうち東京都市大学へ進んだ9名が、高校在学中にICTを活用した遠隔授業を受け、単位を認定されています。4年制大学への現役進学率は約35%で、前年度より10ポイント高くなりました。

中学校での説明会では、現在取り組んでいる教育システムと新校舎について徹底的にアピールしました。その結果、2016年度入試の総志願者は1,955名。前年と比べて約400名増加、2年連続で県内トップを達成しました。独自の入試問題は教育関係者から高い評価を受けています。

また、松本市内の進学校との併願者が300名以上いるなど志願者の学力レベルも高くなり、合格のボーダーラインも上がりました。近年の進学実績や教育



学習環境の整った新校舎で学ぶ生徒たち

システムが評価されたことで、志願者層が変化してきています。

英語力の向上に向けて国際教育をさらに強化

2015年度は、さらに生徒の学力を向上させるための施策を講じました。授業の質を高めるため、大学入試問題などを活用。課題、宿題を充実させ学習量を増やしました。また、朝テストを導入し、前日の授業の定着を図っています。朝テストで70%以上の点数を取れないと、できるまで放課後に補習させます。こうしたことを徹底した効果で、生徒の学習習慣にも変化が見られるようになりました。

また、新たな国際教育プログラムとして、セブ島の海外語学研修をスタート。6名が参加し、英語漬けの2週間を過ごしました。「プリティッシュヒルズ」の語学研修には7名が参加。昼休みにALT(外国語指導助手)と英語で日常会話をする「イングリッシュタワー」も継続しましたが、今後は一層のレベルアップを期して英会話教室へ変更する予定です。本校の英語教育は、中学校などでも評価が高まりつつあるため、さらなる強化を図っていききたいと思います。

生徒が楽しみながら通う豊かさを感じられる学校へ

2015年度も、部・同好会活動が盛んに



文化系クラブの活動にも力を入れています

行われ活躍を見せました。強化部では、サッカー部が2年連続で全国高校サッカー選手権大会に出場。女子バレーボール部は4年連続で全国高等学校総合体育大会(インターハイ)、5年連続で全日本バレーボール高等学校選手権大会(春高バレー)に出場し、インターハイでは過去最高となるベスト8に入りました。

また、昨年度は、書道部、茶道部、吹奏楽部といった文化系クラブの振興にも力を入れました。部・同好会を充実させることで、授業が終わってすぐ帰るのではなく、好きなことをして高校生活を楽しむ生徒を増やしたい。学力を向上させるだけではなく、生徒が生き生きと通えるような、豊かさを感じられる学校にしたいと考えています。

ウェブサイト



<http://www.tcu-shiojiri.ed.jp>

【新校舎完成】

学習環境が充実し、生徒たちの学ぶ意欲が向上

2015年4月入学生が新校舎での学生生活をスタートしました。2014年9月に竣工した新校舎は、鉄筋コンクリート(一部鉄骨造り)の4階建てで、延べ床面積は約6,600㎡。教室棟には15室あり、4階フロアに自習スペース、個別指導ブース、グループ学習室、図書室、65インチの電子黒板などを備える学習支援センターを開設しています。

さらに10月26日には、西館と東館を結ぶ回廊が開通し、パティオ(中庭)も開放されました。芝生を上履きそのまま歩けるので、天気の良い日は生徒たちの憩いの場になっています。こうした学習環境の整備が、生徒の学ぶ意欲の向上と志願者数の増加につながっています。



未来志向の学習環境が整った新校舎

【部活動】

サッカー部と女子バレーボール部が全国大会で活躍

2015年度も多くの運動部が好成績を残しました。サッカー部は2年連続で長野県大会を勝ち抜き、全国高校サッカー選手権大会に出場しました。1月2日に味の素フィールド西が丘で行われた二回戦には、400名を超える都市大応援団が集結。0-1で敗れましたが、序盤から猛攻を仕掛け、何度もチャンスをつくり会場を沸かせました。

女子バレーボール部は4年連続でインターハイ、5年連続で春の高校バレーに出場。インターハイでは優勝には届きませんでしたが、過去最高のベスト8入りを達成しました。生徒たちは全国大会という大舞台での経験を通して、技術とともに人間的にも大きく成長しました。



長野県代表として、全国の舞台で堂々とプレーする選手たち

【教育・研究】

五島慶太翁を学ぶ「創立記念講話」を初めて実施

本校の創立記念日である4月15日、母校の歴史を知る機会として「創立記念講話」を行いました。講話では、都市大グループの祖である五島慶太翁の略歴と業績の紹介、将来の子どもたちに向けられた教育への熱意や壮大な夢が語られ、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。

終了後には生徒会長が謝辞として「学ぶことの大切さを改めて知り、目先のことにとらわれず将来のことを考えて行動していきたい」と決意を述べました。



約800名の生徒と教職員が参加

■2015年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・1年時の数学・英語の単位数増加、進級時の類型変更等、教育課程を編成 ・「サイエンスリテラシー」において、企業・大学等の外部講師による講演会を7回実施 ・学力向上に向けてセンター試験対応の特別編成授業や対策講座実施、予備校との連携強化 ・フィリピン・セブ島における2週間の語学研修を実施 ・英会話、茶道、ボランティア、料理、書道等の文化系クラブ活動の活性化
	キャリア教育 学校間連携	・特別進学と特別選抜の進学希望者には学力向上部による、就職希望者には就職担当者による進路支援(就職希望者は内定率100%を達成) ・都市大との遠隔授業。グループ校の文化祭視察および生徒意見交流会を開催
研究活動		・進学実績向上に向けた研究会や教科指導の研究、授業アンケートの結果分析等を実施
広報活動		・学校説明会や中学校訪問の実施、各種広報ツールの有効活用等の広報強化
施設設備		・新校舎完成



多彩な体験学習と宿泊行事で 「高い学力」と「豊かな心」を育む

重永 睦夫 校長

本校では教育目標である「高い学力」と「豊かな心」を二本柱として学校改革を進めています。2015年度は難関校に数多くの児童が合格しました。また、近隣の小学校が少子化によって苦戦するなか、志願者数についても堅調に推移しています。これからは「日本一たのしく中学受験できる小学校」を合言葉に教育計画を練り上げ、教員の力量と質を高めて、「平成の名門校」を目指します。

高い中学進学実績から 志願者レベルが向上

2015年度は8年ぶりに灘中の合格者が出たほか、麻布、開成、武蔵の男子御三家をはじめ、豊島岡女子、聖光学院、慶應普通部、慶應湘南藤沢、早稲田、浅野など難関私立中学に数多くの合格者が出ました。

2016年度募集の志願者は357名と、少子化の影響があるなか、前年を上回っています。また、入試で初めて満点獲得者が出るなど受験生のレベルも上がり、本校を第一志望にしている子どもも増えてきました。今後も教員の力量と質を一層高めて、魅力的な学校となるよう教職員一丸となって邁進していきます。



教職員も交えて手紙を出し合う「子どもゆうびん局」

日本列島をキャンパスに 様々なプログラムを展開

本校では「豊かな心」を育むため、6年間で60個の体験学習や宿泊行事を実施しています。その一つ、4年生を対象とした三國清三シェフの食育プログラム「ミクニレッスン」は保護者向けの満足度調査でも毎年非常に高い評価を頂いております。また「奈良京都琵琶湖修学旅行」、瀬戸内海小豆島で行う「余島臨海学校」、「北海道卒業記念旅行」のスキー教室など日本列島をキャンパスにして体験学習を展開しました。

また、低学年から始まる週2時間の英語授業や、ネイティブの専任教師との英語学習、英語で4日間を過ごす「ブリティッシュヒルズ」での宿泊学習など、国際化プログラムも充実させています。

都市大施設を利用し夏休み生活展を開催 今後はアフタースクールを強化

都市大グループ校との連携も図っています。2015年度は、二子玉川ライズに完成した「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」を会場に、「夏休み生活展」で入賞した25作品を展示し、児童による3分のプレゼンテーションを行いました。

今後は保護者からも要望の多いアフタースクール活動に力を入れていきたいと考えています。2016年度は陸上部とサッカー部を設置する予定です。



一般公開された「夏休み生活展」

2015年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・理数科目に強い学校づくりのため、児童の関心を高めるよう授業の工夫・充実を図った ・進学実績を高めるため、外部模試において目標を設定。高学年の学力向上を図った ・児童の発案で集会を開催する等、主体性を養育 ・安全教育の充実のため、成城警察との連携や、登下校指導、防災マニュアルの作成等を実施
	キャリア教育	・「成長のしおり」が電算化されてから6年経過、1冊のしおりが完成
	学校間連携	・大学との連携によるプログラミング講座を開催、水泳部学生が水泳大会の運営に協力
研究活動		・教育の質向上に向けた各種研究を推進。理科実験分野の系統的な指導研究を強化 ・低学年へのメディア教育の指導法を研究。ICTメディアリテラシー育成プログラムの研究を推進
広報活動		・学校説明会・公開授業の実施、校外での説明会へ積極的に参加
施設設備		・図書館の蔵書数を増やす等による図書活動の活発化

ウェブサイト



<http://www.tcu-elementary.ed.jp>

“あそび”を二種に組み立て 知育・体育・徳育・食育を推進

重永 睦夫 園長

本園は、「健康・知性・風格・自立・感動と畏敬」を教育目標に、「課題あそび」と「自由あそび」を組み合わせ、集団行動ができる子、個性を伸ばせる子を育てています。そして、こうした「あそび」を中心に、三育（知育・徳育・体育）と食育にバランスよく取り組んでいます。最新の施設設備も含め、恵まれた環境を生かしてこれからも魅力ある幼稚園として地域の皆様に愛されるよう努力していきます。また、年長組では二子玉川ライズのプールで水泳指導も実施しています。



教職員の力を集め より魅力ある幼稚園へ

2016年度募集は、定員70名に対して志願者が約90名と、前年度に比べ約2割減少しました。幼保の一元化といった環境の変化も踏まえ、保護者のニーズを汲み取りながら、あらためて次年度に向け教職員が一丸となり、魅力ある幼稚園づくりに取り組んでいきます。

本園では、半数以上の園児が近隣の公立小学校へ進むことから、授業形式の知育は行わず、お絵描きや折り紙などを集団で行う「課題あそび」と、各自が思い思いに過ごす「自由あそび」を組み合わせた「あそびを中心とした」教育を行い、たく



あそびを中心とした教育を行っています

ましい体と豊かな心を育てています。

とは言うものの、地域性から、毎年小学校受験を目指す園児が一定数おり、昨年は13名が内部進学制度を利用して都市大付属小学校に進んだほか、8名が他の国・私立小学校へと進学しているため、一人ひとりの進路希望に合わせた幼小接続にも配慮しています。

多様な学びを通じ 自国と他国の文化を学ぶ

本園では、幼稚園教育の質を高めるため、アジアや英語圏を始めとする諸外国の民族衣装や言語に触れ、他の文化を学ぶことに力を入れています。2015年度は、都市大付属小学校から外国人教員を招き、「英語であそぼう」と題してクイズや手あそびなどを体験しました。今後はこのような機会を一層増やし、多文化共生への理解を深めていく予定です。

また本園では、園児たちの生活には季節感が必要であるとの考えから、園庭には四季折々の草花や樹木を植え、また正

月や各節句には日本古来の伝統行事や遊びを取り入れています。さらに2015年度には、食育にもつながる栽培体験の場を、より園に近い二子玉川ライズの菜園広場に移し、大根やネギ、水菜といった野菜を栽培・収穫しました。

グループのメリットを 生かした教育活動

2015年度も、都市大グループ各校と連携した教育活動を展開しました。運動会、遠足、大根掘りといった行事では都市大人間科学部の学生サポーターが園児と一緒に汗を流しました。2016年度以降、この幼大連携は人間科学部の正課活動にも組み込まれ、より多くの学生がサポーターとして参加する予定です。

また都市大等々力中高からは、理科部の中学生と先生が来園し「科学体験教室」を12月と3月に実施しました。

今後も都市大グループのメリットを生かし、一層充実した教育活動を行いたいと考えています。

2015年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・学年主任を中心に、一年間の調理活動を精査し、月毎のカリキュラムを作成 ・絵本・国旗カード、世界地図、地球儀等の教材を用いたあそびを実施 ・多文化教育の一環として、新たに外国のボードゲームの教材を採用 ・夏野菜と冬野菜の栽培を通じた食育活動を実施 ・N響や人形劇団ボボロなどプロの楽団や劇団を招いて、本物に触れる活動を実施
	学校間連携	・各種行事で都市大の学生サポーターとの幼大連携の取り組みを実施 ・都市大等々力中高との連携による科学体験教室を実施 ・都市大付属小学校のネイティブ教員を招いた多文化教育を実施
その他		・非常時に備えた避難・防犯訓練および安否確認システムを利用した保護者の引き取り訓練を実施

ウェブサイト



<http://www.tcu-futako.ed.jp>

学校法人五島育英会は、2016(平成28)年5月18日に開催した理事会にて、2015(平成27)年度決算を決定しました。当法人では、学校法人会計基準に基づく計算書(事業活動収支計算書・活動区分資金収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表等)をウェブサイトなどで公開しています。

事業活動収支計算書 当該会計年度の活動に対応する事業活動収入、事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにする	①教育活動収支差額	15.4億円
	②教育活動外収支差額	5.8億円
	③経常収支差額	21.2億円
	④特別収支差額	△0.1億円
	⑤基本金組入前当年度収支差額	21.1億円
	⑥当年度収支差額	7.3億円

活動区分資金収支計算書 資金収支計算書の決算額を3つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにする	①教育活動による資金収支	36.2億円
	②施設整備等活動による資金収支	△32.9億円
	③その他の活動による資金収支	7.3億円
	④支払資金の増減額	10.6億円

* △は、出金が入金より多いことを示しています。

資産		負債・純資産	
有形固定資産	660.3億円 前年比1.3%減	固定負債	103.9億円 前年比4.0%減
特定資産	323.5億円 前年比9.6%増	流動負債	37.6億円 前年比6.5%減
その他の固定資産	42.2億円 前年比17.4%減	基本金	987.0億円 前年比1.2%増
流動資産	67.4億円 前年比1.0%減	繰越収支差額	△35.0億円 前年比25.7%減
資産合計	1093.6億円 前年比1.3%増	負債及び純資産の部合計	1093.6億円 前年比1.3%増

* 文中及び各計算書に記載した金額は百万円未満等、表示単位未満を切り捨てています。そのため合計や増減などの項目で、計算と一致しない場合があります。

【学校法人会計の特徴、企業会計との違い】

企業は利益の追求を目的としており、企業会計は損益を正しく計算し、利害関係者に財務状態や経営成績などの情報を提供するためのものです。それに対して学校法人は教育・研究活動を目的としており、学校法人会計は、公共性の高い学校法人が教育・研究活動を円滑かつ永続的に遂行するために、必要な校地、校舎、機器備品等の基本財産を自己資金で維持した上で、長期的に収支が均衡し、健全な財務状態となっているかを正しく把握するためのものです。維持すべき基本財産を「基本金」として、収入から差し引いた「当年度収支差額」の収支均衡が求められていることが学校会計の特徴としてあげられます。

教育活動収支	経常的な収支のうち、教育及び研究に係る収支状況を見ることができます。
教育活動外収支	経常的な収支のうち、資金の調達・資金の運用、及び収益事業に係る活動による収支状況を見ることができます。
経常収支	教育活動と教育活動外の収支を合計したもので、経常的な収支状況を見ることができます。
特別収支	資産売却や処分等の臨時的な収支状況を見ることができます。
基本金組入前当年度収支差額	事業活動全体の収支状況を見ることができます。(旧会計基準での帰属収支差額)
当年度収支差額	維持すべき基本財産を「基本金」として差し引いた収支状況を見ることができ、学校会計ではこれの収支均衡が求められています。(旧会計基準での消費収支差額)
教育活動による資金収支	教育及び研究に係る収支状況をキャッシュフローベースで見ることができます。
施設整備等活動による資金収支	施設設備の整備状況をキャッシュフローベースで見ることができます。
その他の活動による資金収支	借入金、資金運用等をキャッシュフローベースで見ることができます。

■主な財務比率

比率名	算式	平成27年度五島育英会	比率名	算式	平成27年度五島育英会
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入	10.7%	流動比率	流動資産÷流動負債	179.1%
基本金組入後収支比率	事業活動支出÷(事業活動収入-基本金組入額)	96.0%	負債比率	総負債÷純資産	14.9%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷経常収入	67.8%	純資産構成比率	純資産÷(負債+純資産)	87.0%
人件費比率	人件費÷経常収入	42.9%	固定比率	固定資産÷純資産	107.8%
教育研究経費比率	教育研究経費÷経常収入	29.9%	固定長期適合率	固定資産÷(純資産+固定負債)	97.2%
管理経費比率	管理経費÷経常収入	6.6%	総負債比率	総負債÷総資産	13.0%

2015(平成27)年度 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

教育活動収支	科目	決算		予算		増減
		収入	支出	収入	支出	
収入の部	学生生徒等納付金	13,351		13,406		△55
	手数料	530		562		△32
	寄付金	190		61		128
	経常費等補助金	2,098		2,001		97
	付随事業収入	691		507		183
	雑収入	304		218		85
	教育活動収入計	17,165		16,757		408
	教育活動収入計	17,165		16,757		408
支出の部	人件費	8,447		8,570		△123
	教育研究経費	5,881		6,504		△622
	管理経費	1,292		1,423		△130
	徴収不能額等	0		0		0
	教育活動支出計	15,622		16,498		△876
教育活動収支差額	1,543		258		1,284	
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	332		294		38
	その他の教育活動外収入	2,201		2,207		△6
	教育活動外収入計	2,533		2,501		32
	教育活動外収入計	2,533		2,501		32
教育活動外支出の部	借入金等利息	32		32		0
	その他の教育活動外支出	1,919		1,924		△5
	教育活動外支出計	1,951		1,957		△5
	教育活動外支出計	1,951		1,957		△5
教育活動外収支差額	582		544		37	
経常収支差額	2,125		803		1,322	
特別収支	資産売却差額	7		4		3
	その他の特別収入	30		6		24
	特別収入計	38		10		27
	特別収入計	38		10		27
支出の部	資産処分差額	50		0		50
	その他の特別支出	0		0		0
	特別支出計	50		0		50
	特別支出計	50		0		50
特別収支差額	△12		10		△23	
予備費	0		75		△75	
基本金組入前当年度収支差額	2,113		739		1,374	
基本金組入額合計	△1,374		△1,675		300	
当年度収支差額	739		△936		1,675	
基本金取崩額	160		0		160	
(参考)						
事業活動収入計	19,737		19,269		467	
事業活動支出計	17,624		18,530		△906	

事業活動収支計算書

学生生徒等納付金は133億5100万円となりました。学生生徒数は11,882人となっております。手数料は5億3000万円となりました。志願者数は22,231人となっております。寄付金は1億9000万円、経常費等補助金は20億9800万円となりました。付随事業収入は大学の受託事業の増加等により6億9100万円となりました。雑収入は3億400万円となりましたが、このうち退職金団体からの交付金は1億7500万円となっております。

人件費は84億4700万円となりました。平成27年5月1日付の専任教職員数は収益部門を含めて796人となっております。教育研究経費は58億8100万円、管理経費は12億9200万円となりました。以上により教育活動収支差額は15億4300万円となりました。

教育活動外収入は、受取利息・配当金の3億3200万円、その他の教育活動外収入は、主に収益部門である東急自動車学校等の収入に

2015(平成27)年度 活動区分資金収支計算書

(単位:百万円)

教育活動による資金収支	科目	決算		予算		増減
		収入	支出	収入	支出	
収入	学生生徒等納付金収入	13,351		13,406		△55
	手数料収入	530		562		△32
	特別寄付金収入	92		60		32
	一般寄付金収入	11		0		11
	経常費等補助金収入	2,098		2,001		97
	付随事業収入	691		507		183
	雑収入	304		218		85
	教育活動資金収入計	17,080		16,757		323
支出	人件費支出	8,475		8,615		△139
	教育研究経費支出	3,970		4,549		△578
	管理経費支出	1,131		1,252		△121
	教育活動資金支出計	13,578		14,417		△839
	教育活動資金支出計	13,578		14,417		△839
差引	3,502		2,339		1,162	
調整勘定等	127		90		36	
教育活動資金収支差額	3,629		2,430		1,199	
施設整備等活動による資金収支	施設設備寄付金収入	5		0		5
	施設設備補助金収入	25		6		18
	施設設備売却収入	7		4		3
	その他	0		0		0
	施設整備等活動資金収入計	38		10		27
支出	施設関係支出	685		1,032		△347
	設備関係支出	792		427		364
	その他	1,840		302		1,538
	施設整備等活動資金支出計	3,317		1,762		1,554
差引	△3,279		△1,752		△1,527	
調整勘定等	△13		△8		△5	
施設整備等活動資金収支差額	△3,292		△1,760		△1,532	
小計(教育活動+施設整備等)	337		670		△333	
その他の活動による資金収支	借入金等収入	0		0		0
	受取利息・配当金収入	332		294		38
	収益事業収入	220		150		70
	その他	7,743		4,224		3,518
	その他の活動資金収入計	8,295		4,668		3,627
	借入金等返済支出	442		443		0
	その他	7,190		3,858		3,331
	その他の活動資金支出計	7,632		4,301		3,331
	差引	662		366		295
	調整勘定等	69		△55		125
その他の活動資金収支差額	732		311		420	
予備費	0		75		△75	
支払資金の増減額(小計+その他)	1,069		906		162	
前年度繰越支払資金	5,400		5,400		0	
翌年度繰越支払資金	6,469		6,306		162	

より22億100万円となりました。教育活動外支出は借入金等利息が3200万円、その他の教育活動外支出は、主に収益部門の人件費、経費等支出が19億1900万円となっております。以上により教育活動外収支差額は5億8200万円の収入超過となりました。

教育活動収支と教育活動外収支を合計した経常収支差額は21億2500万円の収入超過となりました。

特別収支は資産売却差額が東急自動車学校の教習車両売却により700万円、その他の特別収入は施設設備補助金、寄付金等で3000万円となっております。資産処分差額はパソコン等教育研究用機器備品、図書等の除却により5000万円を計上し、特別収支差額は

1200万円の支出超過となりました。

基本金組入前当年度収支差額は21億1300万円となり、基本金組入額13億7400万円を差し引いた当年度収支差額は7億3900万円の収入超過となっております。基本金取崩額は、資産の取得を除却が上回った部門があったため、1億6000万円を計上しております。

活動区分資金収支計算書

教育活動による資金収支では、学生生徒等納付金収入、手数料収入、経常費等補助金収入、付随事業収入、雑収入は事業活動収支計算書と同額になります。特別寄付金収入は9200万円、一般寄付金収入は1100万円となり、教育活動による資金収入は170億8000万円となりました。人件費支出は、事業活動収支科目の人件費から退職給与引当金を除き、退職金支出を加えたもので、84億7500万円となりました。教育研究経費及び管理経費については、事業活動収支科目から減価償却額と現物寄付を除いたものと同内容となっております。教育活動による資金支出は135億7800万円となり、教育活動による資金収支差額は36億2900万円の収入超過となりました。

施設整備等活動による資金収支では、施設設備寄付金収入が塩尻高校PTA等より500万円、施設設備補助金収入が大学の1200万円をはじめとして2500万円、施設設備売却収入が東急自動車学校の教習車両売却により700万円等で、施設整備等活動による資金

2015(平成27)年度 貸借対照表(B/S)

(単位:百万円)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末残高	前年度末残高	増減	科目	本年度末残高	前年度末残高	増減
固定資産	102,615	101,092	1,523	固定負債	10,397	10,809	△412
有形固定資産	66,038	66,900	△861	長期借入金	4,505	5,006	△501
土地	30,313	29,944	368	退職給与引当金	4,916	4,915	1
建物	28,437	29,614	△1,176	長期預り金	389	375	14
構築物	1,834	1,973	△139	その他	585	512	72
機器備品等	2,925	2,862	63	流動負債	3,766	4,011	△244
図書	2,527	2,505	21	短期借入金	501	442	58
特定資産	32,353	29,232	3,121	未払金	219	300	△81
その他の固定資産	4,223	4,959	△735	前受金	2,560	2,717	△157
借地権	1,003	1,027	△24	その他	485	549	△64
施設利用権等	383	348	34	負債の部合計	14,164	14,821	△657
有価証券	2,086	2,959	△873	純資産の部			
その他	750	623	127	科目	本年度末残高	前年度末残高	増減
流動資産	6,747	6,814	△67	基本金	98,704	97,489	1,214
現金預金	6,469	5,400	1,069	第1号基本金	94,467	93,253	1,213
未収入金	216	567	△351	第2号基本金	1,172	1,172	0
その他	62	847	△785	第3号基本金	1,843	1,843	0
第4号基本金	1,221	1,221	0	繰越収支差額	△3,504	△4,403	899
資産の部合計	109,363	107,907	1,456	翌年度繰越収支差額	△3,504	△4,403	899
				純資産の部合計	95,199	93,086	2,113
				負債及び純資産の部合計	109,363	107,907	1,456

(注) 減価償却額の累計額の合計額37,095百万円(増加額 1,768百万円)

貸借対照表

資産の部合計は1093億6300万円となり、昨年度より14億5600万円増加しております。

固定資産は1026億1500万円となり昨年度より15億2300万円増加しております。土地は3億6800万円増加、建物は減価償却等により11億7600万円減少しております。

特定資産は施設拡充引当特定資産への積立等により31億2100万円増加しております。その他の固定資産は有価証券の減少等により7億3500万円減少しております。流動資産は67億4700万円とな

収入は3800万円となりました。施設関係支出6億8500万円の内容は、主に大学の土地購入、エアコン等建物付属設備の更新を実施しております。設備関係支出7億9200万円は、教育研究機器備品取得が4億8400万円等となっております。その他の18億4000万円は施設引当資産繰入支出で、施設整備等活動による資金支出は33億1700万円となり、施設整備等活動による資金収支差額は32億9200万円の支出超過となりました。

その他の活動による資金収支では、受取利息・配当金収入は3億3200万円、収益事業収入は収益部門からの繰入収入で2億2000万円を計上しております。その他の収入77億4300万円の内訳は、有価証券償還収入が48億5400万円、東急自動車学校等収益事業の収入20億4400万円、他部門からの繰入収入が5億7100万円等となっております。借入金等返済支出は4億4200万円となりました。借入金の27年度末残高は50億600万円となっております。その他の支出71億9000万円の内訳は、有価証券買替支出が31億7900万円、第4号基本金引当特定資産繰入支出が12億2100万円、東急自動車学校等収益部門の支出が18億7000万円、他部門への繰出支出が5億7100万円等となっております。その他の活動による資金収支差額は7億3200万円の収入超過となりました。

教育活動、施設整備等活動、その他の活動の合計である支払資金の増減額は10億6900万円の収入超過となりました。

り、6700万円減少いたしました。

負債計は141億6400万円となり前年度より6億5700万円減少いたしました。

基本金は987億400万円となり12億1400万円増加いたしました。これは主に校地、建物付属設備、機器備品等の取得による第1号基本金の組入れです。

翌年度繰越収支差額は35億400万円の支出超過となりました。資産から負債を差し引いた純資産の部合計は26年度末から21億1300万円増加した951億9900万円となりました。

キャッシュフロー計算書(C/F)

(単位:百万円)

科目	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度
事業活動によるキャッシュフロー					
i 教育研究活動によるキャッシュフロー					
学生生徒等納付金収入	12,518	13,076	13,542	13,496	13,173
手数料収入	539	540	614	600	566
寄付金収入	62	95	88	88	123
補助金収入	2,476	2,304	2,166	1,308	2,075
事業収入	1,192	1,461	1,657	1,814	2,049
退職金団体交付金収入	360	367	328	360	478
その他	1,657	948	1,089	862	919
小計(A)	18,807	18,793	19,487	18,532	19,386
人件費支出(退職金支出を除く)	8,399	8,576	8,667	8,692	8,825
退職金支出	590	763	688	677	823
教育研究経費支出	3,666	3,734	3,542	3,660	3,684
管理経費支出	2,240	2,110	1,995	2,059	2,065
その他	351	152	609	392	366
小計(B)	15,249	15,338	15,503	15,482	15,766
(A-B)	3,557	3,455	3,983	3,050	3,620
ii 施設等整備活動によるキャッシュフロー					
施設設備関係補助金収入	55	11	7	17	0
不動産等売却収入	2,121	3,568	66	2,493	0
小計(C)	2,176	3,579	74	2,510	0
施設関係支出	4,676	2,461	1,089	3,793	3,459
設備関係支出	773	431	458	510	389
その他	△71	49	63	△155	181
小計(D)	5,379	2,943	1,611	4,148	4,031
(C-D)	△3,202	636	△1,537	△1,637	△4,031
I 事業活動によるキャッシュフロー(I+ii)	355	4,092	2,446	1,412	△411
財務活動によるキャッシュフロー					
資産運用収入	202	225	249	275	309
借入金等収入	0	0	2,000	1,200	500
その他	0	0	0	0	269
小計(E)	202	225	2,249	1,476	1,079
借入金等利息支出	86	73	60	49	40
借入金等返済支出	715	715	711	431	371
小計(F)	801	788	771	481	411
II 財務活動によるキャッシュフロー(E-F)	△599	△563	1,477	995	668
キャッシュフロー計(I+II)	△244	3,529	3,924	2,407	257

消費収支計算書(P/L)

(単位:百万円)

科目	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度
経常収支の部					
学生生徒等納付金	12,518	13,076	13,542	13,496	13,173
手数料	539	540	614	600	566
寄付金	154	169	153	168	190
補助金	2,531	2,316	2,173	1,325	2,075
資産運用収入	619	538	476	551	563
事業収入	1,192	1,461	1,657	1,814	2,049
雑収入(退職金団体交付金を除く)	178	196	182	160	143
退職金団体交付金	360	367	328	360	478
経常収入(A)	18,095	18,666	19,130	18,479	19,240
人件費(退職給与引当金繰入額を除く)	8,399	8,576	8,667	8,692	8,852
退職給与引当金繰入額	676	537	597	534	722
教育研究経費(減価償却額)	(1,920)	(2,003)	(1,930)	(1,885)	(1,929)
管理経費(減価償却額)	(364)	(387)	(384)	(356)	(366)
経常支出(B)	17,269	17,362	17,122	17,193	17,625
I 経常収支差額(A-B)	825	1,304	2,007	1,286	1,615
特別収支の部					
資産運用収入	201	224	249	275	309
資産売却差額	2,104	3,537	68	2,318	168
特別収入(C)	2,306	3,761	317	2,594	478
借入金等利息	86	73	60	49	40
資産処分差額他	281	534	177	25	189
特別支出(D)	367	607	238	75	229
II 特別収支差額(C-D)	1,938	3,153	79	2,518	248
III 帰属収支差額(I+II)	2,763	4,458	2,086	3,805	1,864
基本金組入額(E)	△4,869	△2,751	△1,058	△2,201	△3,411
消費収支差額(III+E)	△2,105	1,706	1,028	1,604	△1,547
基本金取崩額	0	1,352	2	550	156

* 平成27年度より会計基準の改正に伴い計算書の様式が変更され、平成26年度以前の計算書と直接比較できないため、平成26年度以前のキャッシュフロー計算書(C/F)及び消費収支計算書(P/L)の推移データを掲載しました。

2016(平成28)年3月31日現在の財産の目録です

(単位:円)

財産目録 2016(平成28)年3月31日

I 資産総額	金	109,363,833,090
内 1 基本財産	金	62,663,463,650
2 運用財産	金	41,885,450,568
[3 収益事業用財産	金	4,814,918,872]
II 負債総額	金	14,164,017,887
III 正味財産*	金	95,199,815,203

(注記) 資産の価額は取得価額(減価償却資産については帳簿価額)基準による

* 正味財産とは、資産総額から負債総額を差し引いた金額です。

1. 資産

1. 基本財産

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 土地	319,972.62㎡	29,864,856,642
(2) 建物	175,179.82㎡	26,385,834,306
(3) 構築物	-	1,106,238,882
(4) 機器備品	57,026点	2,772,723,589
(5) 図書	581,082冊	2,527,095,312
(6) 車両	14台	6,714,919
(7) 建設仮勘定	0口	0
計	-	62,663,463,650

2. 運用財産

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 預金・現金	-	5,755,322,590
(2) 特定資産	-	32,353,565,742
(3) 有価証券	1口	2,086,097,333
(4) 不動産	109,408.20㎡	448,788,857
(5) 貯蔵品	-	444,894
(6) 未収入金	69口	165,748,272
(7) 前払金	45口	22,776,138
(8) 借地権	11,074.81㎡	294,514,780
(9) 電話加入権	184台	10,675,915
(10) 施設利用権	23件	39,844,240
(11) ソフトウェア	102口	183,423,367
(12) 収益事業元入金	1口	500,000,000
(13) 長期貸付金	3口	2,613,600
(14) 長期前払費用	1口	1,352,246
(15) 短期貸付金	0口	0
(16) 短期有価証券	0口	0
(17) 立替金	1口	161,146
(18) 仮払金	6口	20,121,448
計	-	41,885,450,568

3. 収益事業用財産

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 事業用建物	8,405.29㎡	2,051,826,586
(2) 事業用構築物	-	728,371,455
(3) 事業用不動産(機器・備品他)	260点	146,456,676
(4) 借地権	130.81㎡	709,200,000
(5) 施設利用権	12件	332,621,164
(6) 修繕積立金	1口	62,785,597
(7) 長期前払費用	1件	272,396
(8) 設備利用権	8件	105,332
(9) 預金・現金	-	714,067,836
(10) 未収入金	21口	50,341,916
(11) 貯蔵品	-	3,007,778
(12) 前払金	26口	5,717,936
(13) 立替金	1口	144,200
(14) 仮払金	1口	10,000,000
計	-	4,814,918,872

2. 負債

1. 固定負債

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 長期借入金	9口	4,505,290,000
(2) 学校債	0口	0
(3) 長期未払金	1人	6,083,340
(4) 退職給与引当金	548人	4,539,960,016
計	-	9,051,333,356

2. 流動負債

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 短期借入金	9口	501,600,000
(2) 1年以内償還予定学校債	0口	0
(3) 未払金	11口	126,347,370
(4) 前受金	19口	2,337,508,607
(5) 預り金	34口	450,691,768
計	-	3,416,147,745

3. 収益事業用負債

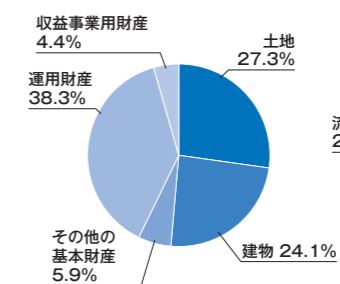
(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 退職給与引当金	65人	376,933,100
(2) 長期預り金	15口	389,712,870
(3) 長期未払金	4口	79,052,070
(4) 収益事業元入金	1口	500,000,000
(5) 未払金	3口	92,712,938
(6) 前受金	6口	222,998,655
(7) 預り金	2口	5,513,153
(8) 未払費用	1口	29,614,000
計	-	1,696,536,786

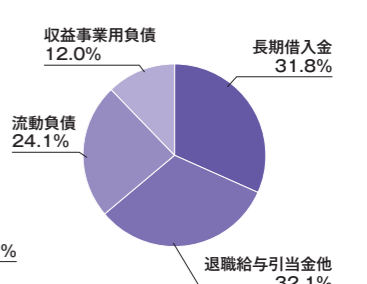
3. 借用財産

区分	数量	備考
(1) 土地	83,857.38㎡	東京都市大学校地他
(2) 建物	0.00㎡	(該当なし)
計	-	

■ 資産の内訳



■ 負債の内訳



* 数値データは、2016年5月1日現在のものです。

■ 東京都市大学グループ各学校(園)の学生・生徒・児童・園児数

(単位:人)

区分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
東京都市大学	3,117	3,071	3,092	2,958
工学部	1,242	1,238	1,229	1,206
知識工学部	1,470	984	537	83
環境情報学部	261	427	592	741
環境学部	250	450	641	831
メディア情報学部	725	705	713	715
都市生活学部	438	438	427	416
人間科学部	592	550	530	529
(大学院)	55	41	35	43
工学研究科	703	706	737	755
環境情報学研究所	786	795	829	831
付属高等学校	478	515	530	581
等々力高等学校	462	474	519	561
等々力中学校	799	793	785	787
塩尻高等学校	475	477	478	476
付属小学校	210	209	208	197
二子幼稚園				
合計	12,063	11,873	11,882	11,710

■ 東京都市大学グループ各学校の延べ志願者数

(単位:人)

区分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
東京都市大学(学部のみ)	18,818	18,520	17,214	17,782
その他	11,021	10,199	10,205	10,334
合計	29,839	28,719	27,419	28,116

■ 五島育英会の教職員数

(単位:人)

区分	教員		専任職員
	専任	非常勤	
法人本部	0	0	39
東京都市大学	274	324	180
東京都市大学付属中学校・高等学校	73	47	6
東京都市大学等々力中学校・高等学校	59	33	6
東京都市大学塩尻高等学校	47	15	7
東京都市大学付属小学校	19	10	4
東京都市大学二子幼稚園	12	1	1
東急自動車学校	0	0	91
合計	484	430	334

■ 東京都市大学グループ各学校の校地・校舎の規模

(単位:m)

区分	東京都市大学				付属中学校・高等学校	等々力中学校・高等学校	塩尻高等学校	付属小学校	二子幼稚園	全体合計
	工学部・知識工学部 ^{*1}	環境情報学部・環境学部・メディア情報学部	都市生活学部・人間科学部	合計 ^{*2}						
校地面積	152,225.53	64,687.96	11,531.00	228,444.49						
校舎面積	79,806.51	21,403.71	14,326.18	115,536.40						
校地面積	19,455.00	37,992.00	39,896.00	7,588.00	1,881.00	335,256.49				
校舎面積	16,618.54	15,520.57	15,002.21	5,978.51	1,168.35	169,824.58				

(単位:m)

^{*1} 世田谷キャンパスおよび原子力研究所・総合研究所の計 ^{*2} 校舎面積に渋谷サテライトクラス(297.59m)および「東京都市大学 二子玉川キャンパス」(574.23m)は含めない
^{*3} 総合グラウンド(校地)26,901.00m²、(校舎)950.87m²を含む

■ 東京都市大学グループ各学校の図書館蔵書数

※1(単位:冊) ※2(単位:点)

区分	都市大グループ総数	東京都市大学			付属中学校・高等学校	等々力中学校・高等学校	塩尻高等学校	付属小学校	二子幼稚園
		世田谷キャンパス	横浜キャンパス	等々力キャンパス					
和書 ^{*1}	567,103	202,225	110,170	157,638	40,683	27,431	11,433	14,768	2,755
洋書 ^{*1}	123,278	80,025	20,475	21,407	134	1,236	1	0	0
小計	690,381	282,250	130,645	179,045	40,817	28,667	11,434	14,768	2,755
雑誌種類数 ^{*2}	3,394	2,048	1,004	206	78	31	20	7	0
視聴覚資料数 ^{*2}	7,104	1,901	3,205	795	492	509	202	0	0
総合計	700,879	286,199	134,854	180,046	41,387	29,207	11,656	14,775	2,755

■ 東京都市大学 競争的研究資金および研究助成(2015年度)

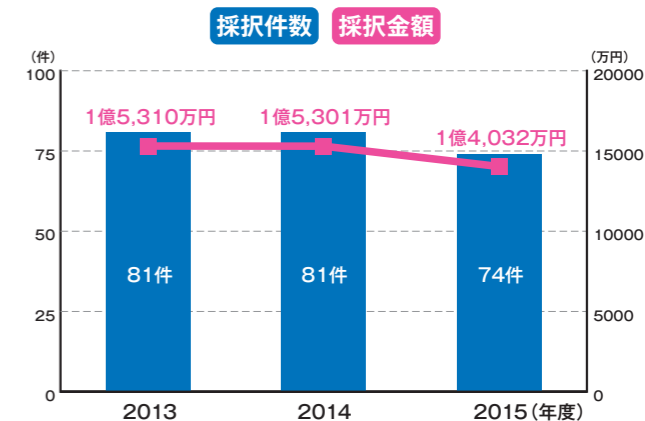
(単位:千円)

事業名・助成金名など	担当官庁ほか	所属	氏名	受入額
戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)	内閣府	総合研究所	三原雄司	141,318 ^{*1}
科学技術試験研究委託事業(再委託)	文部科学省	工学部原子力安全工学科	持木幸一	9,395 ^{*2}
〃	〃	〃	高木直行	1,687
〃	〃	〃	古屋 治	5,030
〃	〃	〃	牟田 仁	3,238
〃	〃	〃	河原林 順	2,823
高性能汎用計算機高度利用事業(再委託)	〃	工学部機械システム工学科	郡 逸平	2,000
エネルギー対策特別対策事業	〃	工学部原子力安全工学科	河原林 順	21,479
〃	〃	〃	持木幸一(再委託)	13,251
〃	〃	〃	高木直行	15,741
原子力人材育成等推進事業費補助金	〃	〃	横堀誠一	4,989
環境研究総合推進費(再委託)	環境省	環境学部環境マネジメント学科	伊坪徳宏	12,877
環境研究総合推進費補助金(再委託)	〃	環境学部環境創生学科	大西暁生	10,362
科学物質リスク研究事業	厚生労働省	〃	久米一成	1,223
原子力施設等防災対策等委託費事業(再委託)	原子力委員会原子力規制庁	工学部都市工学科	吉田郁政	1,512
〃	〃	工学部機械システム工学科	田中康寛	12,960
戦略的創造研究推進事業(CREST)	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)	工学部電気電子工学科	太田 豊	12,090
〃	〃	知識工学部自然科学科	吉田真史	2,600
革新的エネルギー研究開発拠点形成事業	〃	総合研究所	小長井 誠	16,227
革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)	〃	工学部原子力安全工学科	高木直行	6,930
科学技術コミュニケーション推進事業	〃	環境学部環境創生学科	田中 章	769
戦略的創造研究推進事業(RISTEX)	〃	環境学部環境マネジメント学科	伊坪徳宏	12,038
論文博士号取得希望者に対する支援事業	独立行政法人日本学術振興会	〃	〃	1,200
イノベーションハブ構築支援事業	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	工学部都市工学科	末政直晃	3,204 ^{*2}
分散型エネルギー次世代電力網構築実証事業	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	工学部電気電子工学科	太田 豊	3,772
次世代洋上直流送電システム開発事業(再委託)	〃	〃	〃	1,150
平成27年度先導的産業技術創出事業費助成金	〃	工学部エネルギー化学科	金澤昭彦	8,135
長寿・障害総合研究事業長寿科学研究開発事業(再委託)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	人間科学部児童学科	早坂信哉	260
模擬ガラス固化体試料の高温XAFS測定研究	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	工学部原子力安全工学科	松浦治明	1,450
MA回収用吸着材の最適化に関する研究	〃	〃	〃	352
大学等連携支援事業	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	原子力研究所	三橋偉司	1,000

※1 3件の合計額 ※2 2件の合計額

事業名・助成金名	所属	氏名	受入額
研究奨励金(公益財団法人服部報広会)	工学部機械工学科	西部光一	1,000
長期海外研究援助(公益財団法人電気通信普及財団)	工学部機械システム工学科	三宅弘晃	3,928 (32,200USD)
長期渡航援助(公益財団法人電気通信普及財団)	工学部機械システム工学科博士後期課程1年	小田貴嗣	170
調査研究助成(公益財団法人LIXIL住生活財団)	工学部建築学科	小見康夫	600
研究助成(3カ年)(公益財団法人天田財団)	工学部機械工学科	亀山雄高	2,000
研究助成(2カ年)(公益財団法人旭硝子財団)	環境学部環境創生学科	横田樹広	1,500
研究開発・調査助成(公益財団法人八洲環境技術振興財団)	〃	〃	970
研究助成(公益財団法人日本板硝子材料工学助成会)	工学部エネルギー化学科	江場宏美	900
研究助成(パワーアカデミー)	工学部電気電子工学科	太田 豊	1,000
研究助成(2カ年)(公益財団法人NSKメカトロニクス技術高度化財団)	〃	中川聡子	2,000
補助金助成(一般財団法人山縣記念財団)	環境学部環境マネジメント学科	岡田 啓	100
海外発表促進助成(公益財団法人日本科学協会)	工学部都市工学科	中村隆司	129

文部科学省科学研究費助成事業(科研費)・研究種目	件数	受入額
新学術領域研究	1	14,170
基盤研究(A)	1	5,590
基盤研究(B)	6	30,680
基盤研究(C)	50	67,990
挑戦的萌芽研究	9	12,090
若手研究(B)	6	9,100
特別研究奨励費	1	700
合計	74	140,320



2016年度の事業計画

少子高齢化や高度情報化、グローバル化等、我が国の教育を取り巻く環境は厳しさを増し変化は加速しています。

文部科学省は、教育の質的転換及び高大接続改革を図るべく、高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的な改革に向けたロードマップを発表する等、従来にない改革を推進しています。

このような状況下において、当法人は魅力と存在感ある教育研究を鮮明に打ち出し、スピード感をもって改革を推進し、新たな教育環境の整備、教育内容の充実と経営基盤の安定に取り組み、東京都市大学グループの理念に基づく有為な人材を育成すべく2016年度事業計画を策定しました。

【教育研究】

東京都市大学では、「アクションプラン2030」の着実な進捗に加え、東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)をコアとしたグローバル人材育成プログラムを推進し、国際標準の大学への進化を目指します。

大学院工学研究科においては、社会人学生を対象に「社会基盤マネジメント」の分野に関する国際的レベルの修士・博士後期課程プログラムを開設し、人材育成の充実を図るとともに、留学生を増加させる施策を検討します。また、学部・大学院の一貫教育の導入を見据えたカリキュラムの構築に着手します。

研究面では、産学連携に基づく対外的な研究活動の推進、地域連携による共同研究の推進を図るため、重点研究の指定・支援、地域企業との連携を行います。

なお、実行3年目となる「アクションプラン2030」については、4つのプロジェクトごとに、主に以下の事業を実行します。

- (1) 教育の質保証
 - ① 策定した3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）に基づくカリキュラムのスリム化及び科目ナンバリング制の導入
 - ② GPA (Grade Point Average) の全学的な活用とクォーター制の拡充
 - ③ 内部質保証方針に基づく自己点検・評価の実施
- (2) キャンパス教育環境向上
 - ① 教育の質向上及び学生サービス向上を目指した中長期的なICTグランドデザインの策定
 - ② 主体的に学ぶ教育環境の整備等、施設の計画的更新
 - ③ 「東京都市大学 二子玉川夢キャンパス」及び「渋谷サテライトクラス」における地域連携拠点としての積極的な運用
- (3) ブランド力向上
 - ① ブランディング広報の戦略的展開
 - ② 教育・研究に係る活動及び成果の積極的な情報発信
 - ③ 男女共同参画活動等、ダイバーシティマネジメント事業の実施
- (4) 大学運営向上
 - ① 教学IR (Institutional Research) システムの導入・活用による施策の実施
 - ② 教員評価制度における新たな評価基準の策定
 - ③ 外部研究資金、寄付金等の積極的な獲得

初等中等学校等においては、グローバル教育に加え、電子黒板・タブレット端末等、ICTを活用した学習支援の強化・充実を図ります。

【学生・生徒等支援】

五島育英会「五島育英基金」等の各種奨学顕彰事業を実施するとともに、「夢に翼を奨学金」として、東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)参加学生のうち、留学中の顕著な活動が認められる学生やプログラムの成績上位者に対して奨学金を支給し、参加学生の意欲向上を図ります。また、国際的視野の向上を推進すべく、海外インターンシップ派遣のための支援を行います。

初等中等学校等の在校生についても、グローバル人材育成事業、社会的価値向上施策等を対象とした、魅力と特色ある教育活動の具現化策を積極的に推進します。

【学校間連携】

大学と付属高校との高大連携を始めとする学校間連携を引き続き実施し、都市大グループの結束、総合力の強化及び発展向上を図ります。

なお、「幼大連携」で実施している食育活動については、「二子玉川ライズ内菜園広場」に拠点を移し実行します。

【広報】

- (1) 学外広報

パブリシティ活動（メディアへの掲載等を目的としたプレスリリースや取材誘致など）やウェブサイトを通じた情報発信により、社会とより良い関係を築くとともに、ブランド価値向上のため一貫したイメージの発信に努めます。
- (2) 学内広報

広報誌などを通じ、教職員間における情報共有や相互理解の促進を図ります。

【人事】

- (1) 職員配置

教育職員においては、東京都市大学の「アクションプラン2030」による教育の質の保証・向上を推進する教育体制の充実による人員増を見込みます。
- (2) 人材育成

事務職員においては、自己啓発支援を拡充し、特に個々の職員の語学能力開発に向けた研修に取り組みます。

初等中等学校等の教育職員に対しては、個々の職員の授業力・指導力等、資質向上に向けた体系的な階層別研修を実施し、個々の教育スキルの更なる向上に取り組みます。

【財務】

事業計画に基づく2016年度予算は、事業活動収入194億4,300万円を見込んでいます。一方、事業活動支出は、東京都市大学における「アクションプラン2030」に係る費用を含め、184億6,000万円としました。

教育環境の充実を図るために、施設投資を行ったことにより、基本金組入後の当年度収支差額は13億5,400万円の支出超過となる予算です。

【施設設備】

主な施設・設備計画は下記のとおりです。

- (1) 改修工事等
 - ① 東京都市大学
 - ア 世田谷キャンパス
 - ・耐震改築工事(2016年度分:6億1,200万円)
 - ・10号館・11号館研究室改修工事(1,500万円)
 - イ 横浜キャンパス
 - ・3号館(講義研究棟)外壁改修工事(3,330万8,000円)
 - ・電話交換設備更新(2,500万円)
 - ② 東京都市大学付属小学校
 - 運動場芝生化改修工事(4,000万円)
- (2) 土地の買収
 - 東京都市大学世田谷キャンパス敷地内借用校地の購入(7億5,780万円)
- (3) 設備関係
 - ① 東京都市大学付属中学校・高等学校
 - ・プロジェクター更新(2,112万1,000円)
 - ・無線LAN環境整備(3,121万3,000円)
 - ② 東京都市大学等々力中学校・高等学校
 - 校務システムサーバ更新(1,000万円)

- ③ 法人本部
 - ・人事情報管理システム構築(1,640万4,000円)
 - ・会計システム用機器更新(1,950万円)

【内部監査】

内部監査計画に基づき、監事、会計監査人との連携を図りながら、リスク・アプローチに基づく会計監査、業務監査を実施します。

【収益事業】

- (1) 不動産賃貸

五島育英会ビル

運営管理の検証を継続的に行い、常にテナントの立場に立った環境整備を図ります。なお、プロパティマネジメント業務を一部業務委託し、更に質の高い資産の維持管理に努めるとともに業務の効率化を図ります。
- (2) 東急自動車学校

相模原方面エリアからの新規顧客の獲得や、企業及び業界団体向け営業強化による大型車を中心とした顧客拡大を図るとともに、業務効率化を一層進め、経常収支の黒字を恒常化します。

各種奨学制度

五島育英会では、各種奨学制度を充実させ、学生・生徒・児童の学びと成長を支援しています。

【奨学金制度】

奨学金名	2015年度採用実績	奨学金名	2015年度採用実績
五島育英基金	149件	五島育英会曾祢奨学基金	2件
武蔵育英基金	44件	山田奨学基金	16件
蔵田奨学基金	1件	今泉奨学基金	6件
東京都市大学黒澤敦・淑子奨学金	5件	東京都市大学佐野利秋国際交流奨学基金	4件
桐華奨学基金	5件	峰奨学基金	1件
小島奨学基金	20件	五島育英会夢に翼を奨学金	37件

※本多奨学基金は五島育英基金へ統合しました
奨学金については五島育英会ウェブサイトをご覧ください <http://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/scholarship.html>

【その他の支援制度】

当法人では、家計急変や災害などによって学修機会を失うことのないよう制度を整えています。

【教育ローンについて】

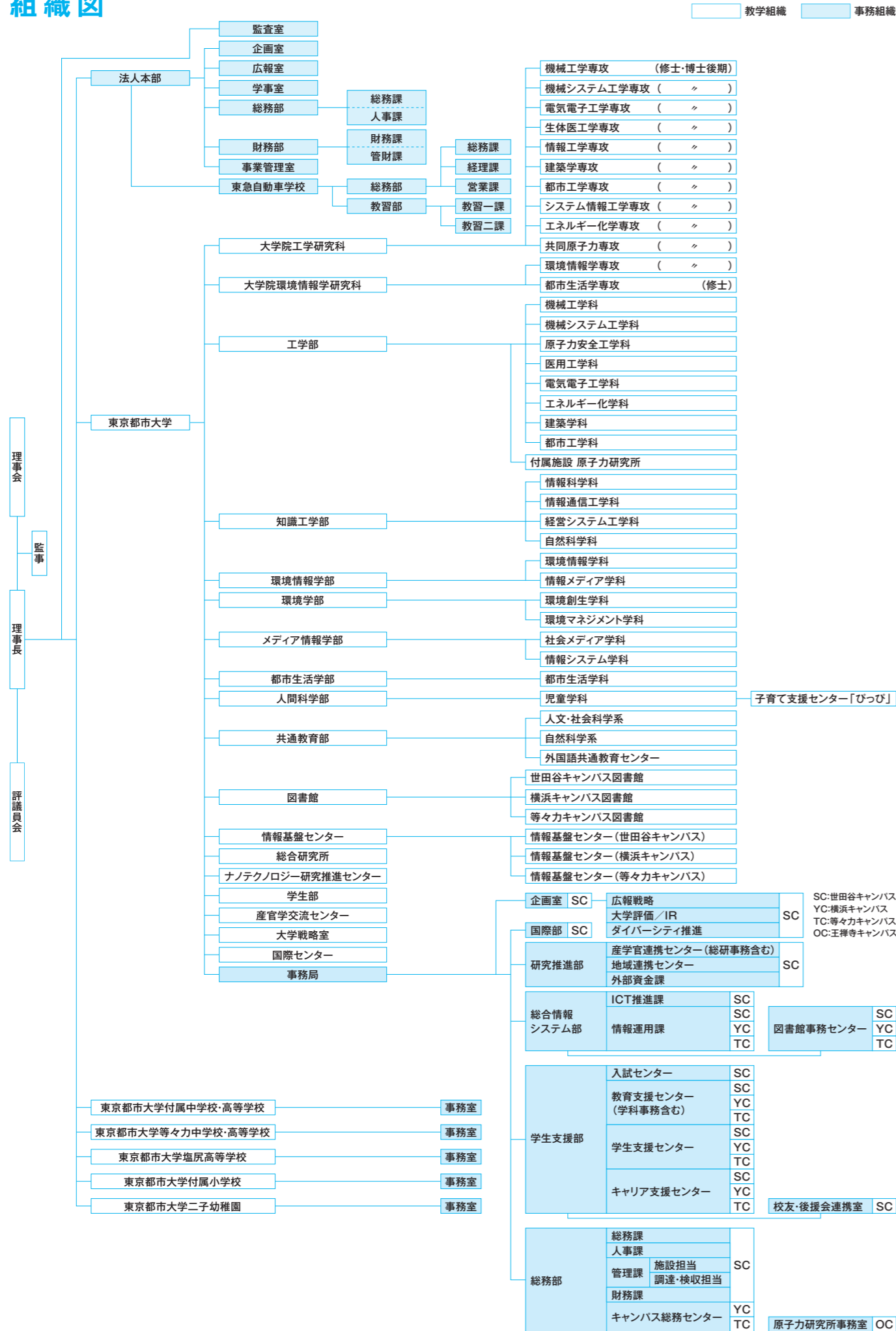
当法人では、経済的理由により就学が困難となった学生・生徒・児童に対する負担軽減を目的として、金融機関との提携による「学校法人五島育英会教育ローン」制度を設けております。



五島育英基金では学業人物優秀者を奨学(写真は大学での授与式の様子)

詳しくは、都市大グループ各学校へお問い合わせください。

組織図



役員・評議員一覧

任期:2015年5月27日~2018年5月26日

■理事(12名)

- 安達 功 理事長
- 村田 一志 専務理事
- 橋本 昌彦 常務理事
- 三木 千壽 東京都市大学学長
- 今村 俊夫 (学外)
- 越村 敏昭 (〃)
- 湯本 雅恵 東京都市大学副学長
- 上倉 信介 東京都市大学事務局長
- 鈴木 照海 法人本部総務部担当理事
- 金指 潔 (学外)
- 吉田 勝 (〃)
- 川辺 加代子 (〃)

■監事(2名)

- 吉田 創 (学外)
- 松下 正勝 (〃)

■評議員(31名)

- 三木 千壽
- 小野 正人
- 原田 豊
- 赤羽 利文
- 重永 睦夫
- 大上 浩
- 田口 亮
- 佐野 雅子
- 川口 和英
- 白石 明
- 鈴木 照海
- 小久保 善生
- 小山 欽也
- 片岡 昭博
- 吉田 勝
- 松村 慶一
- 原口 兼正
- 川辺 加代子
- 石田 彌
- 安達 功
- 村田 一志
- 野本 弘文
- 今村 俊夫
- 上條 清文
- 金指 潔
- 橋本 昌彦
- 湯本 雅恵
- 天沼 基
- 國分 榮
- 廣江 秀夫
- 片田 敏行

東急グループについて



2015年「二子玉川ライズ」がグランドオープン。6月1日には「東京都市大学 二子玉川キャンパス」も誕生し、知的創造の場が広がっています

東急グループは、1922年の「目黒蒲田電鉄株式会社」設立に始まり、2016年3月末現在、東京急行電鉄を中核企業とした224社8法人で構成する企業グループです。交通事業を基盤とした「街づくり」を事業の根幹に置き、不動産、生活サービス、ホテル・リゾートなど、長年にわたって、皆様の日々の生活に密着した様々な分野で事業を進めています。

「美しい時代へ」をスローガンに、人々の

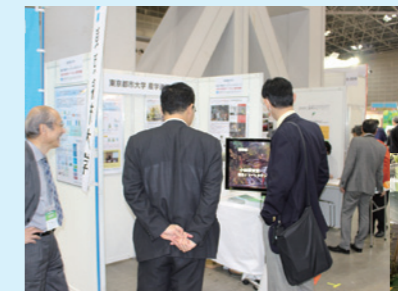
多様な価値観に対応した「美しい生活環境の創造」をグループ理念として掲げ、各社の「自立」を前提に、互いに連携しあい、相乗効果を生み出す「共創」を推し進め、信頼され愛される東急ブランドの確立を目指しています。

また、学校法人・財団の活動、全国で展開している東急会の活動などを通して、地域社会に根ざした社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

東京都市大学と東急グループの連携

東京都市大学では、東急グループとの様々な連携プロジェクトを推進しております。2015年12月10日~12日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2015」において、東急不動産との産学連携成果を動画・パネル展示などで紹介しました。

また二子玉川ライズ「Winter Rise 2015」では、工学部建築学科の研究室が2015年11月から約3か月にわたって太陽光や電飾の反射光による冬の環境演出を行いました。期間中、地域の皆様を対象としたワークショップも開催しました。



初めて共同出展しこれまでの成果を披露しました



ワークショップで制作した「光る花」を思い思いに飾りました

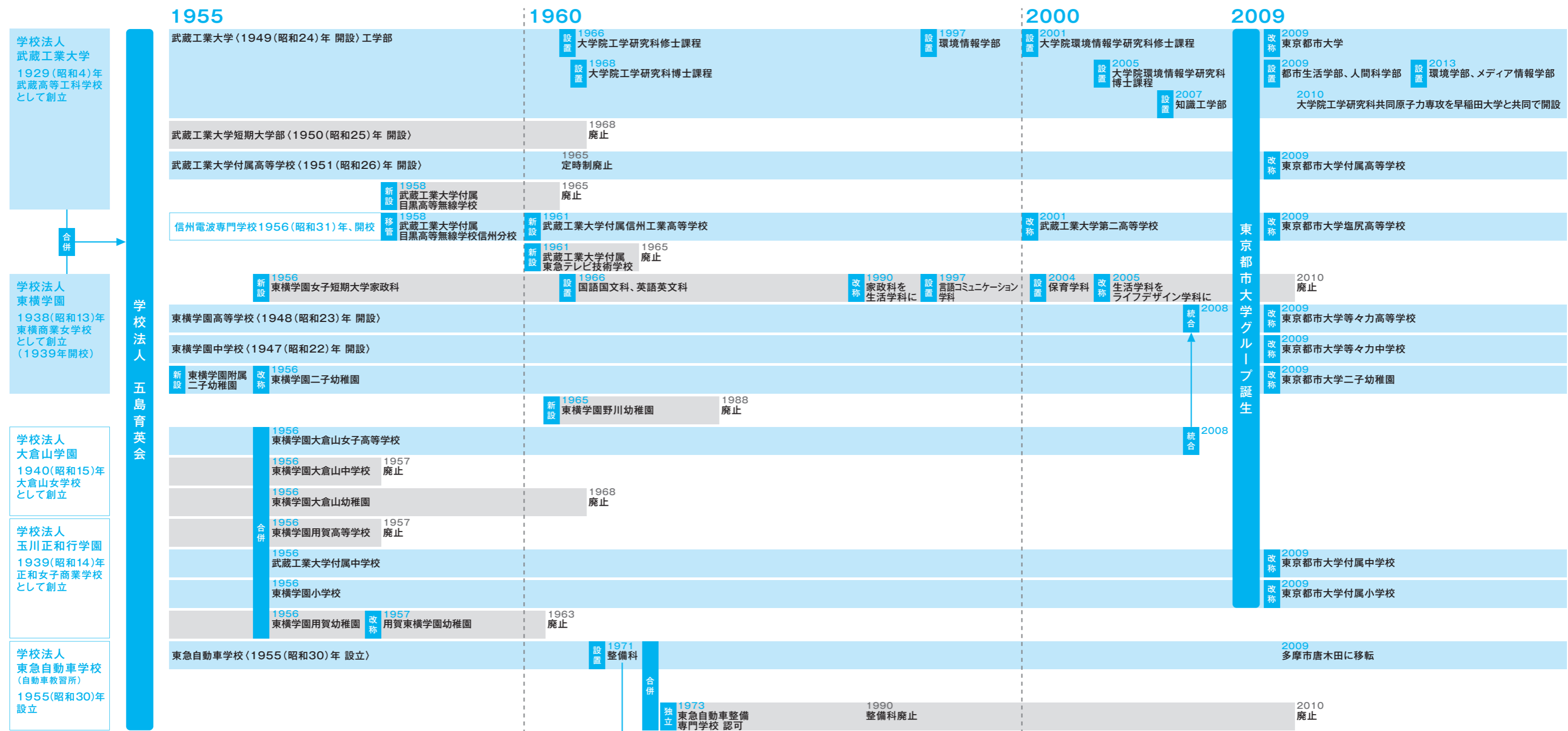
学校法人五島育英会の概要

学校法人五島育英会のあゆみ

当法人は、東急グループの礎を築いた五島慶太初代理事長が、1938年「女子の実践的教育普及」を目的に創立した東横商業女学校に端を発します。その後、学校法人東横学園設立(1951年)を経て、1955年6月、学校法人武蔵工業大学と学校法人東横学園が統合して学校法人五島育英会となりました。当時の設置校は、武蔵工業大学、同短期大学部、同付属高等学校、東横学園高等学校、同中学校の5校でした。

以来、幾多の変遷を経て、2009年4月、設置する大学1校、高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園に「東京都市大学」の名称を冠し、「東京都市大学グループ」を形成しました。

東京都市大学の歴史については、世田谷キャンパス五島記念館(3号館)1階エントランスホールの「歴史展示コーナー」で詳しくご覧いただけます。



写真で見る東京都市大学 3キャンパスの変遷



事業活動

東急自動車学校

2015年度は、世田谷区二子玉川から多摩市唐木田に移転して6年目となりました。移転当初4,000名前後だった年間入校者数は、知名度向上のための営業活動と、指導の質的向上に努めてきた効果等により、今では約5,700名と堅調に増加しており、都内に47校ある自動車学校の中で4位に位置しています。清潔感のある広々とした施設、丁寧でわかりやすい教習は、お客様の高い評価を得ています。

集客活動として、上半期に「新生活応援キャンペーン」、下半期に「免許取得キャンペーン」等を展開しました。無料のスクールバスは、9月に路線再編成と相模原駅方面への路線新設を実施し、お客様が通いやすい環境の整備を進めました。さらに、11月には普通車を新車に入れ替え、教習の快適性向上にも努めています。

社会情勢への対応も進めています。70歳を超えて運転免許を更新される方の増加に対応し、「高齢者講習」を積極的に展開。受講者数は7,544名で、前年度より630名増加しました。また、業務中の運転

事故リスクの低減に注力する企業の増加に対応して、企業向け安全運転研修を拡充し、座学と実際のコース走行による運転適性検査・運転技能チェックなどの研修を実施しています。研修実施企業は約40社に上っています。

地域社会への貢献活動にも継続して取り組んでいます。毎年春と秋の全国交通安全運動の期間中には、多摩中央警察署が主催する二輪車講習会の会場として本校を提供。さらに11月には、南大沢警察署主催の大学対抗二輪車安全運転競技会を本校の二輪コースで開催しました。

都市大グループとの連携も継続しています。8月22日には、東京都市大学が主催する中学生と高校生対象の手作り電気自動車コンテスト「都市大エコ1チャレンジカップ2015」を本校で開催しました。当校を会場として使用するのは4回目になります。

今後も社会情勢の動向を捉え、地域社会や都市大グループ内外の機関との連携に取り組んでまいります。



2009年12月から多摩市唐木田で事業を行っている東急自動車学校

■ウェブサイト

<http://www.109n.jp>

■スマートフォン

<http://www.109n.jp/sp>

東急自動車学校

所在地:東京都多摩市唐木田3-6

TEL:042-372-0109



五島育英会ビル

五島育英会ビルは、東急東横線・田園都市線やJR線などが集まる渋谷駅から徒歩約5分という好立地に加え、都市型オフィスビルとしての快適性を備えています。

同ビル内には、東京都市大学と早稲田大学の共同大学院が教育・研究の拠点とする「東京都市大学 渋谷サテライトクラス」が設置されています。

【建物概要】

建物名称:五島育英会ビル
敷地面積:1,001.79㎡
構造:鉄骨鉄筋コンクリート造
地下3階地上8階塔屋1階
建物面積:899.27㎡
建物延面積:8,777.88㎡

賃貸オフィスに関するお問い合わせは、五島育英会 事業管理室 (TEL: 03-3464-6954) までお願いいたします。



五島育英会野川ビル

東急田園都市線沿線の閑静な住宅街にたたずむ地上5階建ての一括賃貸物件です。周辺には2系統のバス路線が乗り入れるなど、快適性と利便性を備え、収益事業の一翼を担っています。

所在地:神奈川県川崎市宮前区野川3024-2
最寄駅:東急田園都市線「鷺沼」駅
建物構造:鉄筋コンクリート造、地上5階建



教育関連施設

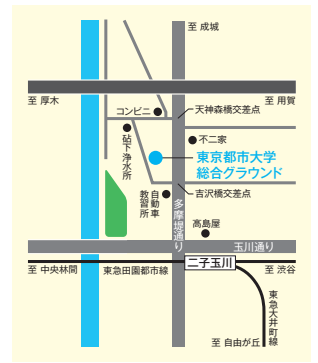


【施設DATA】

所在地：東京都世田谷区鎌田1-16-1
 設備：野球場1面(両翼90m、中堅100m)、テニスコート4面、多目的グラウンド1面(テニスコート9面相当)、クラブハウス2棟
 アクセス：東急大井町線・田園都市線二子玉川駅から東急バス砧本村行きで約10分、「都市大総合グラウンド前」下車すぐ／成城学園前行きで約7分、「吉沢」下車徒歩5分

東京都市大学 総合グラウンド

総合グラウンドは、都市大グループを形成する大学から幼稚園までの学生・生徒・児童・園児たちが、健康と体力の増進を図り、学校生活を充実させるために、2010年6月に開設しました。敷地面積は26,901㎡。東京地区各校のほぼ中間地点に位置しています。

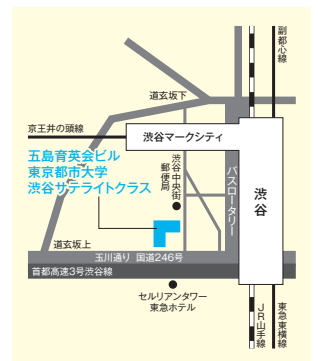


【施設DATA】

所在地：東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル地下1階
 設備：教室(48名および42名収容)、教員控室、受付、プロジェクター、プラズマディスプレイなど
 アクセス：JR渋谷駅西口(南改札)から徒歩5分／京王井の頭線渋谷駅西口から徒歩2分

東京都市大学 渋谷サテライトクラス

渋谷サテライトクラスは渋谷駅から徒歩5分という好立地にあり、東京都市大学と早稲田大学による共同大学院「共同原子力専攻」(2010年4月開設)の教育・研究拠点として利用されるほか、キャリア関連セミナーや特別講義、大学院の授業などに活用されています。



【施設DATA】

所在地：山梨県北杜市高根町清里3545-1
 設備：宿泊室(和室14畳・11室、8畳・1室)、ラウンジ、ダイニング、乾燥室・洗濯室、浴室、展望室など
 アクセス：JR中央本線小淵沢駅から小海線清里駅下車、タクシーで約10分／(東京から)中央自動車道須玉I.Cから国道141号線
 ウェブサイト：<https://www.goto-ikuei.ac.jp/yatsu>

五島育英会 八ヶ岳山荘

八ヶ岳山荘は、大自然の山懐に優しく包まれた清里高原にあります。都市大グループの学生・生徒および教職員が、ゼミやクラブの合宿、研修場所として利用するオールシーズン型の宿泊施設です。館内には12の和室があり、ラウンジや食堂、浴室に加え、体育館を併設しています。周辺エリアには、美術館や博物館などの観光スポットがあり、良い環境のもと様々なことを学ぶことができます。



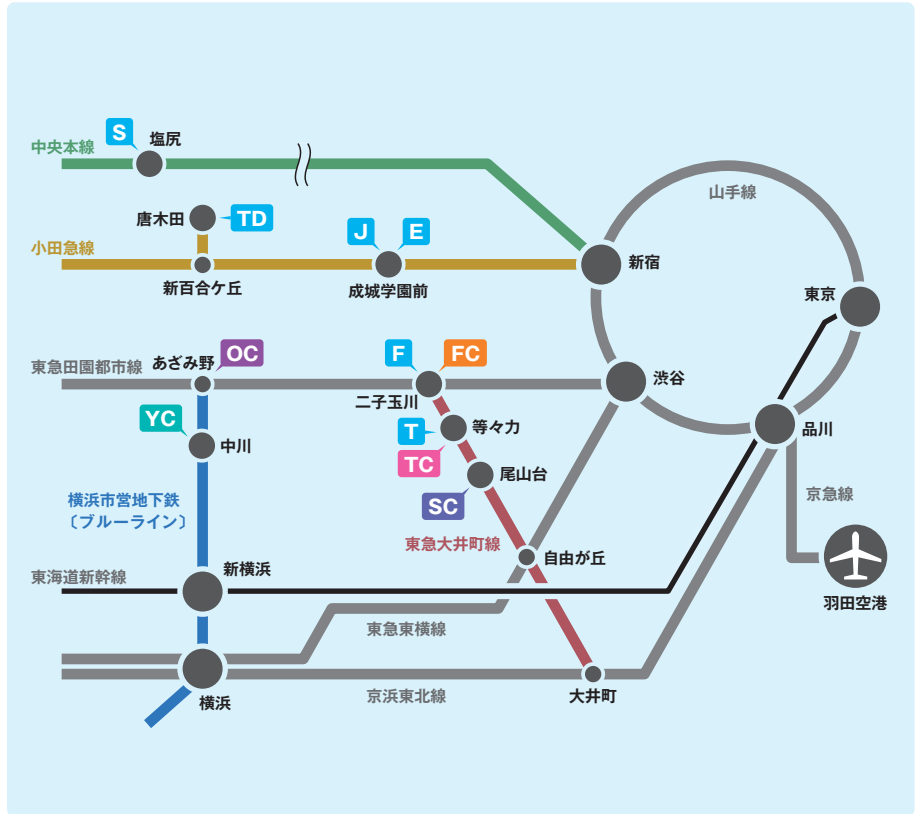


東京都市大学グループの誕生に伴い、共通したシンボルマークとロゴタイプを定めました。
 シンボルマーク…略称“都市大”の「都市」の“T”を図案化したものです。
 サステナブルな明るい未来を見通す「窓」でもあり、
 そうした社会を実現するための「知恵のフキダシ」の象形でもあります。
 マークの色調(アイデンティティカラー“TCUブルー”)は、
 知性とサステナブルな明るい未来を意味しています。
 ロゴタイプ…シンプルでカーブの効いたゴシックのタイプフェイスは、
 時代に柔軟で、若々しさのある学校であることを表現しています。

Access Map

東京都市大学

- SC** : 世田谷キャンパス
東急大井町線 尾山台駅より徒歩12分
 - YC** : 横浜キャンパス
横浜市営地下鉄(ブルーライン) 中川駅より徒歩5分
 - TC** : 等々力キャンパス
東急大井町線 等々力駅より徒歩10分
 - OC** : 王禅寺キャンパス
東急田園都市線・横浜市営地下鉄 あざみ野駅より路線バスで約15分
 - FC** : 二子玉川夢キャンパス
東急大井町線・田園都市線 二子玉川駅より徒歩1分
-
- J** : 東京都市大学 附属中学校・高等学校
小田急線 成城学園前駅より徒歩10分
 - T** : 東京都市大学 等々力中学校・高等学校
東急大井町線 等々力駅より徒歩10分
 - S** : 東京都市大学 塩尻高等学校
中央本線 塩尻駅より徒歩15分
 - E** : 東京都市大学 附属小学校
小田急線 成城学園前駅より徒歩10分
 - F** : 東京都市大学 二子幼稚園
東急大井町線・田園都市線 二子玉川駅より徒歩5分
-
- TD** : 東急自動車学校
小田急線 唐木田駅より徒歩15分



2015年度事業報告書 学校法人五島育英会

発行月:2016年7月
 発行者:学校法人五島育英会
 本報告書の対象期間:2015年4月1日~2016年3月31日
 (一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています)

無断転載を禁止します。
 All Rights Reserved.
 Printed in Japan © Gotoh Educational Corporation

本誌に関するお問い合わせ

学校法人五島育英会法人本部広報室
 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル8F
 TEL:03-3464-6916 FAX:03-3464-6650 URL <http://www.gotoh-ikuei.ac.jp>